

交流
特集号

世代を越えて集う「東京鰐陵会」を目指して

特集1「東日本大震災から10年」 特集2「会員からのお便り」 特集3「母校は今」

東京鰐陵会・会長挨拶

2年ぶりの総会開催を目指して

東京鰐陵会会長 佐藤悠(37回生)



東京鰐陵会の皆様には、日頃から会の運営に格段のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染拡大が総会開催の行方に大きな影を落としています。

当会では1回目の『緊急事態宣言』が解除されてから約1か月後の2020年6月末、「秋から冬にかけても大規模な感染拡大の可能性が高いとみられること」や「3密を避ける困難さ」に加えて会場に予定していた「東海大学校友会館が7月末で閉館」という事態も重なり、史上初めて総会の中止を決定しました。当会は母校が火災で校舎の一部が焼失した援助金の募集

を目的に1959年(昭和34年)5月に設立総会が開催され、2014年(平成26年)の第23回総会からは隔年開催から毎年開催に踏み切るなど28回の総会を重ねてきました。それだけに総会の中止は文字通り苦渋の決断でしたが、「総会で集団感染が発生する事態は何としても避けたい」という決意のもと中止を決めました。会則では「総会は原則として毎年、会長が招集」と規定していますが、総会の決議事項は次の総会で一括して決議します。

新型コロナウイルスの感染対策は、切り札のワクチン接種が全国的に進んでいますが、一方で東京に4回目の『緊急事態宣言』が発出されるなど予断を許さない状況で、収束の見通しは立っていません。コロナの感染は、新しい変異株の出現も手伝ってこの秋、どのような状況になるか全く分かりませんが、役員会では、あくまでも会員

同士が直接顔を会わせるリアル総会を目指したいと考えています。そこで「リアル総会の開催可否」の判断基準を検討したり、執行部体制の強化を行ったりするなど、2年ぶりの総会再開に備えて出来る限りの準備を行っています。総会の新しい会場は、新国立競技場に近い神宮外苑の「日本青年館ホテル」大宴会場に決めました。会場側とは総会の開催に向けて入念な打ち合わせを重ねています。前回までの「東海大学校友会館」に劣らない会場としてご期待いただければと思います。ただ、急激な感染の拡大で「リアル総会を急遽断念」という事態も想定しておく必要があります。その場合は、「書面総会」に切り替えたいと考えており、会則の改訂や運営ガイドの検討も進めています。一方、会報誌『東京鰐陵』19号は総会開催の可否とは切り離して制作に取り組み

しました。今回は「総会報告がない」という事態を受けて編集方針を変更して「交流特集号」とし、「東日本大震災から10年」をはじめ「会員からのお便り」、そして「母校は今」の3本の特集を柱に編集しました。

ところで当会の運営は、総会の際に会費と併せて集めている運営費、及び欠席者からの会報誌の通信代、そして寄付で賄われています。それ以外の収入は一切ありません。総会の中止で運営資金が思うように集まらなければ会の運営は窮地に陥ります。

役員会では全会員に「総会の中止」の案内とあわせて資金協力を呼びかけました。その結果、4月末までに例年を上回る220人から81万1,797円の資金が集まり役員一同、胸をなでおろしています。この場を借りて皆さまのご協力に改めて御礼申し上げます。

任期の最終年になります。会長としての役割を全うし、次期体制に引き継ぎたいと考えています。皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

コロナ禍の同窓会

鰐陵同窓会会長 青木利光(43回生)



東京鰐陵会の皆様には平素より本部事業に格別のご理解とご協力を賜りまして厚く御礼を申し上げます。コロナ禍で日本中が大変ですが、お元気で過ごしてでしょうか。

暮れに日本漢字能力検定協会が発表した令和2年の漢字は『密』でした。コロナに始まりコロナに終わったこの1年、3密の回避が毎日叫ばれていたのが納得でした。大きな和紙に一気に書き上げた清水寺の森清範貫主の話は「密」という字には親しみという意味も含まれているので、物理的に離れていても心はさらにしっかりと繋がりをもっていききたい」でした。

同窓会もかくありたいのですが、なかなか難しい。令和

3年の総会等が開催できれば何よりですが、現況では親睦を図る機会はなく、会員との繋がりをもつのに有効なのは会報だけです。総会がなかった分会員も楽しみにしていると思います。一段と充実した『東京鰐陵』を期待しています。同窓会報『鰐陵63号』も編集委員の皆様が頑張りで立派に出来上がり、2月下旬に皆さんに配布されました。

令和2年の同窓会入会式で92回生231人を迎え入れました。進学等で首都圏に大勢の後輩達が巣立っていきましました。コロナ禍で勉強も仕事もままならないのではないかと憂慮しています。もし機会があれば精一杯のメールをお願い申し上げます。

3月11日で大震災から丁度10年、各復興事業も完遂してきました。2年9月に待望の新内海橋、港地区では防波堤や高盛土道路が完成、石巻かわみなど大橋の工事も進捗しています。市内で最も多くの犠牲者が出た南浜地区には、

4年かけて整備した復興祈念公園が3月に開園、4月には開成地区に複合文化施設が開館しました。コロナ禍が治まった頃には是非、新しい石巻

新しい時代に立ち向かう

宮城県石巻高等学校前校長 神成浩志



東京鰐陵会の皆様には、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。また、本校の教育活動に対しまして日頃より格別の御理解・御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和元年11月に東京鰐陵会総会に初めて参加させていただきました。楽しい一時を過ごすことができました。次年度もお招きがあれば参加できるようにと準備しておりましたが、感染症が収束せず令和2年度は中止と聞き、誠に残念でした。東京鰐陵会に限らず、令

を見に来て下さい。

結びに、東京鰐陵会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念しまして挨拶と致します。

和2年度は新型コロナウイルス感染症に振り回された1年だったと思います。

学校も例年とは異なる展開となりました。令和2年度の最初の約2ヶ月間は臨時休校となりましたが、始業式と入学式は形を変えて実施しました。高校総体は中止でしたが、代替大会の実施や全国総文祭のようにオンライン参加がありました。校内の学校行事も変更せざるを得ませんでした。文化祭は文化部の発表のみの代替行事に、強歩大会は代替体育大会に変更しました。12月の2学年修学旅行も、行き先を変更したり、クラス毎にしたりするなど工夫するのとて実施できました。1月には、新制度である大学入学共通テストを受験しましたが、本校で感染症のクラスターが

発生し、共通テストの翌日から14日間にわたり臨時休校となつてしまいました。それでも3年生は、国公立大学合格者数が過去10年間で最も多い94名となるなど、大きな成果を上げることができました。

令和2年度を振り返りますと、感染症による影響で新たな工夫が生まれ、何年か前から徐々に変わりつつあった長期的な変化とあいまって、新しい時代へ突入したように感じます。第4次産業革命と言われる技術の急速な発展は、社会や産業、さらには私たちの生活環境にも大きな変革をもたらすと言われています。が、その前に、感染症によって我々の行動様式が変わってしまった。感染症がさらに長期化すれば、社会の仕組みそのものが大きく変化するのではないかと感じています。

東日本大震災から10年が経ちましたが、ふるさと宮城の復興は、震災以前の状態へ回復させるという復旧にとどまらず、先進的な地域づくりを行ってまいります。今回も、感染症で失ったものを元の状態に戻すのではなく、これまでの課題を解決する視点で新たな



ものを創造しつつあると思います。震災後の秩序ある冷静な対応が世界から賞賛された我々は、困難に対し前向きに立ち向かい、やがて感染症を乗り越え、新時代を築き上げていくと思っています。

まもなく百周年を迎える本校も次の百年に向かう大きな節目を迎えます。今後も、皆様に本校の教育活動への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。結びにますますの発展と皆様の御健勝を御祈念申し上げ、挨拶とします。

特集プロローグ

「2020年度総会の中止」という事態の中で、本号はこれまでの編集方針を大幅に変更して同窓会の交流活動をどのように継続、発展させていくかを考える「交流特集号」としました。具体的には、「東日本大震災から10年」、「会員からのお便り」、そして「母校は今」の3本の特集を柱に編集しました。

特集1

「東日本大震災から10年」

2021年は「東日本大震災から10年」の節目の年に当たることから石巻市、東松島市、女川町の3自治体の首長に、震災からの復興状況と残された課題というテーマで報告をお願いしました。

3自治体の震災復興事業の進捗と併せて、「残された課題」として挙げられた「持続可能な地域社会の構築」や、「あの日」以降の学びや経験を震災そのもの

の教訓とともに、いかに伝え続けていくかといった点にも目を向けていただければと思います。

また3人の会員に、震災10年に寄せた寄稿をお願いしました。

このうち、石巻市芸術文化振興財団の阿部和夫理事長（29回生）には、震災でステーションのある施設を失った危機的な状況の中で「アウトリーチ事業」に活路を見出した震災後の財団の様子などを寄せていただきました。

近江弘一（石巻日日新聞社社長（49回生））には、「地域と共に生き、地域に貢献する」をモットーに社会人サッカーチームの設立や震災で大きな被害をうけた新聞社の事業再建に取り組んだ生き様を寄稿していただきました。

そして村井善郎医師（37回生）には、「女川の人に寄り添い女川を見つめ続けてきた医師としての活動」を中心に壊滅的な被害を受けた女川

の支援活動を綴ってもらいました。

3人の思いを通じて未曾有の大災害に見舞われた「ふる里」を見つめ直す、よすがにしていたいただければと思います。

特集2

「会員からのお便り」

コロナ禍の中で「有志の方からの特別寄稿」と「近況報告（ハガキ）」の紹介です。

この1年、ほとんど顔を会わせる機会が無かった同窓生、同期生の最新の消息、情報をお届けします。亀山兵吉氏（23回生）の「懐かしい母校グラウンドのひと時」、古座明郎氏（24回生）の「最後の旧制中学1年」、佐藤允俊氏（24回生）の「震災後、やっと辿り着いた日和山」、明石公夫氏（34回生）の「大震災復興行脚・自転車日本縦断3、485km」の長文の特別寄稿は、全文をそのまま掲載しました。

また葉書による「近況報告」では、コロナ禍の中で暮らしぶりや思い、工夫等が寄せられ、ページを大幅に増

やして紹介しました。

なお今回は母校の美術部生徒の作品を挿絵として掲載しました。会員からのお便りと合わせてご覧いただければ幸いです。

特集3

「母校は今」

交流活動の継続、発展を考える一環として「母校の今」を綴った鰐陵同窓会事務局長と現役高校生からの寄稿です。

鰐陵同窓会の二階堂守宏事務局長（57回生）の「コロナに振り回された1年」、17年ぶりにインターハイに出場したヨット部の佐藤舞夏さん（令和3年3月卒）の「全国大会を振り返って」、そして生徒会長の菱沼輝さん（3年生）の「ウイズコロナ時代の石巻高校」の3本を寄せていただきました。学校生活に影を落とした新型コロナウィルスの状況やクラブ活動に邁進する現役高校生の姿が生き生きと描かれています。

特集1「東日本大震災から10年」自治体からの報告

「東日本大震災から10年・復興の現状と課題」

石巻市からの報告

石巻市前市長 亀山紘(33回生)



東日本大震災の発生は、予想だにしない出来事でありましたが、復旧・復興の完結に向け、一心不乱に邁進してまいりました。この間、日本全国のみならず世界の国々の方々、更には鰐陵同窓生の皆様からの温かい御支援に感謝すると共に、ここに石巻市の状況を報告いたします。

最大の被災地「石巻」からの復興まちづくり

平成23年3月11日午後2時46分、最大震度6強の巨大地震が本市を襲いました。

地震発生から約40分後、8・6メートルを超える巨

大津波が鮎川浜に到達。その後、沿岸部の地域を巨大津波が次々と襲い、本市の被害は、市街地部から半島沿岸部までの広範囲に及び、特に、雄勝、北上、牡鹿の各地域では、行政機能等が集中するまちの中心部が流出するなど、壊滅的な被害を受けました。本市での犠牲者数は、東日本大震災全体の2割を占め、最大の被災地となりました。

東日本大震災からの復興にあたりましては、「石巻市震災復興基本計画」を平成23年12月に策定し、復興まちづくりを進めてまいりました。

この計画は、東日本大震災で被った津波襲来による被害を最重視し、多重防御と高台移転を基本的な考え方とし、また、人口減少や高齢化に対応するため、災害に強く安全・安心でコンパクトなまちづくりを行うものであります。



新市街地区画整理事業(新蛇田地区)

被災者の住まい再建を最優先

震災からの復興の過程においては、被災者の住まいの再建を最優先に各種復興事業を進めてまいりました。これまでの道のりは決して平坦ではなく、険しく長期間に渡るものであり、被災者が生活を再建するまでには、被災直後の

避難所生活から仮設住宅への移転、そして復興住宅や防災集団移転団地等での恒久住宅への再建と、複数回の移転をお願いせざるを得ませんでした。

住まい再建の主な事業といえます。まずは、新市街地及び半島沿岸部での防災集団移転促進事業が上げられます。復興まちづくりにおける土地利用の考え方に基つき、災害危険区域に指定したエリアに居住する被災者の移転先として、新蛇田地区等の新市街地整備を市内6地区、半島沿岸部の高台整備を46地区で実施し、1972戸の宅地整備を平成29年度末までに進めてまいります。

復興公営住宅の整備については、被災者の意向を反映し、主に市街地にはマンション型、半島沿岸部には戸建型の住宅を建築しております。市内全域で4456戸の復興公営住宅の整備を平成30年度末までに行っております。

仮設住宅については、従来のプレハブ仮設住宅のほか、東日本大震災の特徴でもある民間の賃貸住宅を借り上げる「みなし仮設」で

対応いたしました。プレハブとみなし仮設住宅を合わせ、最大で1万3001戸に3万2000人を超える被災者が避難生活を強いられました。被災から5年後に策定した被災者自立再建促進プログラムに基づき、被災者個々の状況に応じた丁寧な対応を行ったことにより、令和2年1月にプレハブ仮設住宅を解消し、みなし仮設住宅についても、令和2年12月に全てを解消することができました。

まちづくりの基本は「コンパクト」・「協働」・「コミュニティ」

復興まちづくりにあたっては、持続的発展を見据え、「コンパクト」・「協働」・「コミュニティ」を理念とし、地域の価値を高め、新しい魅力と活力のあるまちづくりを進めるとともに、地域が共に支え合う協働のまちづくりを進め、誰もが役割と生きがいを持って笑顔で暮らせるまちの実現を目指してまいりました。

具体的には、公共・商業・観光施設等をコンパクトに集積するとともに、各地域の情

報・交通・人材のネットワーク化を戦略的に図ることであり、市街地部では、石巻駅周辺の防災機能を高めるために防災センター及びささえあいセンター等を集約した津波復興拠点整備事業、中心市街地に賑わいを創出と交流拠点となるかわまち交流拠点整備事業を実施してまいりました。

また、津波被害により壊滅的な被害を受けた半島沿岸部においては、各地区の中心部の再生と賑わいを取り戻すため、雄勝、牡鹿、北上の各エリアに行政機能や観光交流機能等の公共施設等を集約する拠点エリア整備事業を実施し、人口減少社会にあっても持続可能なまちづくりを進めてまいりました。

震災から十年 復興完結まであと一歩

東日本大震災の発災から10年が過ぎ、震災復興基本計画で目標とした復興完結までの期間が経過しました。

復旧・復興事業については、本年3月に震災からの復興の象徴となる石巻南浜津波復興祈念公園が開園、本市の文化芸術活動の拠点となる石巻市



堤防一体空間(川とまちを一体的に利活用できる賑わい空間)

複合文化施設「まきあーとテラス」が開館するなど、これまでの復旧・復興に向けた取組が着実に形となってまいりましたが、一部の事業については、令和元年10月の台風第19号による被害や昨年度に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症等の影響で事業が遅延しております。

復興完結までに要する費用については、現在進行中の事業費を含め総額で約1兆2273億円となっております。

おり、この金額は、震災前の本市の一般会計歳出予算額の約20年分に相当する莫大な事業費となっております。主な内訳としましては、ガレキ処理等の災害廃棄物処理が1887億円、道路・橋りょう、下水道整備等の公共土木施設整備が3224億円、災害公営住宅の建設費用等が1503億円、住宅再建支援金等の被災者支援が1259億円となっております(令和2年3月末時点)。

本市では、震災からの復興にあたり、震災直後から全国のボランティアの方々によくの支援をいただいたほか、短期間での復旧・復興事業の実施に際しては、全国各地の自治体からの職員の応援をいただいております。

最大の被災地からの復興と更なる飛躍

令和3年度以降の復興の取組について、国においては、地震・津波被災地域については、被害の大きかった一部地域について、被災状況を鑑み、第2期復興・創生期間として支援を5年間継続するとされました。

本市においては、道路・橋りょう、下水道等の一部の事業を令和3年度に繰り越しているほか、被災者の心のケアについては、被災者個々の状況に応じた期間に捉われない丁寧な対応が必要であります。また、産業の分野では、石巻港及び石巻漁港の背後地に造成した産業団地への企業誘致等の活動がこれからであり、新型コロナウイルス感染症の拡大もあり生業再生への影響が懸念されます。

震災から10年が経過した現時点において、「復旧・復興事業の完結」、「被災者の心のケアとコミュニティ再生」、「復興に携わるマンパワーの確保」、「産業・生業の再生」、「半島沿岸部の移転元地の利活用」の5つを優先課題としております。

また、震災に起因する人口減少・少子高齢化の加速化や復興公営住宅における高齢独居世帯の増加、半島沿岸部の移動手段の確保等といった課題は深刻な状況であり、地方創生に向けた各種課題解決に向けては、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念に基づき、昨年度に内閣府

より選定された「SDGs 未来都市」並びに「自治体SDGsモデル事業」の取組を推進してまいります。

具体的取組として、今後10年間で「2030年にあるべき姿」を実現し、未曾有の大震災からの復興とその後更なる飛躍を果すためには、課題解決に早急に取り組んでいく必要があります。公共交通と地域カーシェアリングを結び付ける地域交通情報アプリケーション(ローカル版Maas)を活用し、電動で時速20km未満で公道を走るグリーンスローモビリティを地域の支え合いによる新たな交通手段として確立してまいります。また、未来技術を搭載したAIロボットを高齢者と地域を繋ぐ新たなコミュニケーションツールとして、高齢者の孤立防止等を図ってまいります。地域の中に相手を思いやる「おたがいさま」の声があふれる支え合いのまちづくりを推進し、コミュニティを核とした持続可能な地域社会を構築することにより、「最大の被災地から未来都市石巻」の実現を目指してまいります。

東松島市からの報告

東松島市長 渥美 巖



皆様に感謝

東京鰐陵会の皆様には、ふるさと石巻圏域の復興に、常日頃から心をお寄せいただき、誠にありがとうございます。

東松島市は、国・県の厚い財政支援と全国からの応援をいただき、東日本大震災からの復興は着実に進み、国の復興・創生期である令和2年度(令和3年3月末)までには、ハード事業はおおよそ完遂しました。

今後は、被災した方々に寄り添った「心の復興」やコミュニティの再生に力点を置き、復興のモデル市を目指して参ります。また、平成30年6月に全国で29自治体が国からSDGs未来都市として選定されましたが、被災三県では当時唯一本市が選定されており、SDGsの理念を基本として、「住み続けられ持

続・発展する東松島市、地方創生のトップランナー」を目指して参りますので、今後とも温かいご支援をよろしくお願い致します。

せっかくの機会ですので、東松島市の震災復興の状況とともに、現在力を入れている取組、今後の政策の展開方針などを報告いたします。



「SDGs未来都市」選定証授与式 総理大臣官邸 2018.6.15

災害に強く安全で快適で美しいまち

1点目は津波対策など、災害に強いまちづくりです。

まず、防災集団移転については、すべて高台と内陸部に移住することとし、平成28年11月までに計画した7つの団地に717区画の宅地および568戸の災害公営住宅の整備が完了しました。また、団地以外にも533戸の災害公営住宅を整備しております。

併せて、市全体の津波対策として、海沿いの防波堤、その背後の高盛土堤、さらにその背後の高盛土道路等の多重防衛体制を整えました。

これらとともに、市民総参加の総合防災訓練、小中学校や地域自治組織における防災研修など、災害に強いまちづくりを進めています。

産業と活力のある住みよくなるまち

2点目は産業と活力のある住みよくなるまちづくりです。本市にとって海は最大の観光資源であり、海岸防潮堤上に整備した道路は海が眺望できるよう工夫し、海沿いを走るJR仙石線も、野蒜地域で高台に線路を移

して安全を確保した上で松島湾が一望できるようになりました。

また被災した土地は、農地や産業用地としての整備も進め、震災後新たに20の農業法人が設立され、トマトやイチゴを園芸ハウスで栽培する若者グループ、障害者雇

用で野菜を生産する事業者、観光園を展開するグループなど、新しい農業の取組も始まりました。また、東京エレクトロン関連の工場など、震災後の企業立地もあり、今後も雇用創出に向け企業誘致に努めていきます。

奥松島地域では、復旧した道路等を活用して、韓国済州島由来のトレッキングコース「オルレ」がスタートしました。宮城オルレ奥松島コースは、日本三景松島を眼下に望む、全コース10km所要時間約4時間のコースとなっています。

さらに、震災前野蒜地区にあった県営の「松島自然の家」が宮戸地区に移転復旧し、キャンプ場などの野外活動フィールドが平成29年にオープンしまし



宮城オルレ奥松島コース 2018.10.8～



宮城県「松島自然の家」

た。また、旧宮戸小学校跡地には、160人収容可能な宿泊棟や体育館などが整備され、令和3年4月に供用を開始しました。

子育てしやすく誰もが健康で安心して暮らせるまち

3点目は子育てしやすく誰もが健康で安心して暮らせるまちづくりです。

高齢化にも対応した健康づくりのため、県の矢本海浜緑地公園復旧の中で新たに市が管理するパークゴルフ場を整備し、場内には防衛庁補助により奥松島クラブハウスを整備しました。

また子育てへの支援は、地域の女性が活躍するためにも重要と考え、被災した市立保育所を早期復旧するとともに、午後8

時まで預かり保育が可能な2つの民間保育所を誘致しました。

全小学校校地または隣地へ放課後児童クラブ設置を進め、午後7時まで時間を拡大して運営しています。

今後も生涯にわたる健康づくりと子育てへの支援を進め、人口の維持・向上につなげたいと考えています。

次代を担う人材を育む学びと文化・スポーツのまち

4点目は次代を担う人材を育む学びと文化・スポーツのまちづくりです。

本市では、学力向上の取組として、令和元年度から市内小学校の夏休みを短縮して学習時間を確保するとともに、令和2年度には全ての学校へ電子黒板を整備するとともに、国のGIGAスクール構想実現のため1人1台の電子タブレットを整備するなど、ICT教育を推進しています。あわせて全小中学校へのエアコン配備など、子どもたちの学ぶ環境の充実も図っています。

また、令和2年4月には、石巻圏域で初となる、私立の全日制・全寮制で定員360人の「日本ウェルネス宮城高等学校」が



開校しました。圏域初の私立高校誘致により、地域活性化が期待されます。

スポーツ振興の取組としては、令和2年3月20日に東京オリンピック・パラリンピックの聖火が国内で最初に東松島市に所在する航空自衛隊松島基地に到着しました。

この歴史的な日を記念し、「スポーツ健康都市宣言」を行い、市民のスポーツ振興と健康づくりを推進しています。

本市には、みやぎ国体のソフトボール会場となった「鷹来(たかぎ)の森運動公園」や、サッカー競技会場となった「奥松島運動公園」があります。

「奥松島運動公園」は震災により被災しましたが、令和2年

10月に移転整備が完了しました。本市は充実したスポーツ環境となっておりますので、皆様にも是非ご活用いただければと思います。

SDGsの推進と新しい総合計画の策定

本市は平成30年6月に、被災三県では当時唯一、「SDGs未来都市」に選定されました。これを受け、本市では東北地区で選定された秋田県仙北市および山形県飯豊町とともに、「第1回東北SDGs未来都市サミット」を開催したほか、シンポジウムの開催等により市民への意識啓発を行っております。

さらに、令和2年12月に市役所職員及び市民の手作りで第2次総合計画後期基本計画を策定し、「住み続けられ持続・発展する東松島市―地方創生のトップランナーをめざす―」をまちづくりの将来像として掲げ、「本市産業の持続的な成長促進と働く場の確保」、「地域全体で支える学びと子育て環境の充実」、「安全・安心で快適に生き生きと暮らせる市民協働の地域社会」の3つの基本理念を置き、その実現に努めていくこととしております。

特にその中で、被災跡地の有



とから、周辺交通環境改善のため「矢本駅南北通路」の整備を進めており、JRと駅舎の改修も含め協議を行っております。

さらに、

効活用のため「令和の果樹の花里づくり構想」や、三陸自動車道矢本パーキング隣接地への「道の駅整備構想」を打ち出し、それぞれ市役所内にプロジェクトチームを設置し、実現に向けて動き出しています。

また、震災により住民の居住地が南から北へ移転したことから、JR仙石線矢本駅への北側からのアクセスが増加したこ

令和2年12月には、菅総理大臣が、就任後初めて宮城県に入り、本市を最初の訪問先を選び宮戸地区を訪問し、私から令和の果樹の花里づくり構想について説明を行いました。

本市として、市民と一体となって皆様のふるさとを更に誇れるまちにして参りますので、今後、一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。



女川町からの報告

女川町長 須田 善明 (63回生)



あれから10年を迎えた。この間、東京鰐陵会をはじめ、全国各地の地元出身者から郷土の再建に対する物心共の支援を賜ってきたところであり、紙面をお借りしあらためて感謝と御礼を申し上げる次第である。

改めて被災概況を

東日本大震災により、自治体規模に対する割合では人命の犠牲率・建造物の被災率ともに被災自治体で最悪の数字を記録したのが女川町である。町民の約1割にも上る827名の尊い命と、先人達が築き上げてきた街並みの7割以上が自然の猛威により奪われていった。そしてこのことは急激な人口流出に繋がっている。全壊流出した建物があま

りに多いため空き住戸が過剰で、宅地部の多くが津波浸水エリアで災害危険区域となり、家を購入・賃貸したくても物件がない、家を建てたくても土地がない状況となった。復興事業による宅地造成整備を待てない町民は転出以外に選択肢がなく、震災前・震災後の国政調査の5年比較での人口減少率は全国1741市区町村中ワーストを記録した。震災により三つのワーストがもたらされたのが女川町である。

復興計画の策定と進捗体制

震災から間もない4月、当時の安住宣孝町長は復興計画の策定に向け復興推進室と計画策定委員会を設置、9月には町議会において復興計画の議決を得た。本計画は復興における各分野の基本的な考え方を示すものであり、筆者が町長職を拝命後にこの計画を具体化していくことになった。また、それまで検討されていた土地利用計画については、復興後の地域の持続性、

すなわち地方社会の人口減少局面にどう対応していくかという観点から大幅な見直しを行い、導線集約型の都市構造とすることとした。事業推進に当たってはUR都市再生機構と基盤整備における全面的なパートナーシップ協定を結び、工事体制としては日本で初めてとなる公共事業におけるコンストラクションマネジメント方式(代表事業者が全体の進捗管理と工事展開を全面的に行う)を採用、これにより関係主体の役割の明確化と設計↓工事のスピード化、そのための資源配分の最適化を図った。

復興事業の進捗と整備率の推移

とは言い、本町の災害公営住宅の整備率と各年度の宮城県内平均整備率を比較すると、最初期においては県平均を大きく上回るものの、それ以後は県平均を下回り、終盤に近づくにつれて県平均を最終的に追い越していくグラフとなる。これは、そもそも本町における被害が都市規模に対し

てあまりに大きく、基盤整備や移転宅地の整備に全体として期間を要し、それが各所で済んだ段階からしか住宅建設を始められないことから来る。一方でそれは当初から予見されたことであり、だからこそ初期の供給は可能な限り早期に行っていくなくてはならなかった。そうでないと町民の心が折れてしまうからである。そのため、町中心部の半分を全面封鎖したうえでの大規模な土地整備などを進めながら、地震被害は軽微であった陸上競技場を解体し早期に200戸の大型災害公営住宅を整備するなど、短期と中長期の事業を複数同時に走らせながら生活再建・事業再建の場の整備を急いだ。これが可能だったのは前述の事業進捗体制と町民各位の全面的な協力があつたからである。

公民連携体制でのまちづくり

本町のまちづくりには、直接的に多くの町民に関わっていた。よく行政で見られるのは、計画立案は行政側がコンサル等の手助けをもらいながら策定し、それに対する意見を住民に求める、と

いうものであるが、そうでなく、策定のプロセスそのものに町民自身に参画してもらった。なぜならば、まちづくりは行政だけがやるものでなく、民間だけがやるものでもない。各主体が関わって皆で作っていくものはずだからであるし、この際自分たちのまちづくりに直接関わりたい、と思う町民が多くいると考えていたからだ。それが出るのは本町のように小規模な自治体であるからこそでもある。「町民の100人に1人は何らかの形で関わってもらいたい」と考えていたが、実人数でも100人以上の町民に参加していただいた。三つ紹介する。2カ年に渡つたまちづくりワーキンググループでは、その結論として「口説ける水辺があるまち女川」にしていく、ということであった。我が意を得たり、であり、津波被災地であるにもかかわらず、このような素敵な結論を導いていただいたことをとても誇りに思う。また、商業エリアのにぎわい拠点形成に当たっては、官民の垣根を越えて各地を視察、それにとどまらず岩手県紫波町

で行われた「復興まちづくり
ブートキャンプ」に通い、指
導陣の激しい叱責や厳しい指
摘にもめげずに、再建プラン
やその事業手法検討と事業計
画立案についても私自身も含
めた連合チームで検討・具体
化していった。そしてこれら
を空間形成面でコーディネー
トし行政側の復興工事にも落
とし込む役割を担ったのが復
興まちづくりデザイン会議で
ある。都市景観のプロと行政
を含めた復興工事担当側、町
民や関心のある者が一堂に集
い、地域の想いやアイデア
を、工事スケジュールの範囲
内で反映できるようにプロが機
能面も含めてデザインし、工
事側がそれを現実のものにし
ていく、という体制が出来上
がった。この一連のプロセス
が関係者間における課題や目
標の共有化を促し、「チーム
女川」として関係者が一丸と
なっており、進む原動力となっ
た。そしてそこには町民のみ
ならず「女川で頑張りたい」
「女川をもっと面白くしたい」
「女川をもっとよくしたい」という数多くの
町外の方々が加わってくれた
し、それが刺激と熱量を数多
く生み出してくれた。その皆

さんを含めた「チーム女川」
であり、外に開かれた町とい
う在り方とイメージをより
強く生み出すことにもなった。

これからの10年へ向けての課 題と役割

本町では約2年半前に宅地
と復興住宅の整備を全て終え
るなど、大半の復興事業は完
了している。震災後一気に進
んだ人口流出は、自然減要因
はあるもののほとんど収まっ
た。見た目には復興完了、と
いうことになるだろう。

さて、これまでの10年は、
復興という目標に向けて
ビジョンはそれぞれであった
としてもそこに向き合い、連
帯できるところは連帯し、ど
ういう形でも、願わくはより
よい未来へと進まなければ
ならなかったし、進むしかな
かった。利他の中に利己を
見つける、そのような精神と、
個々のベクトルは違っても大
きな文脈としてまとまれる
復興という目標感が心合
わせもさせてくれた。あの日
に私達はあまりにも多くもの
を失ったが、あれからの日々
にはそれまでは無かったであ
ろう様々な出会いと経験、そ

れを基にした知恵と行動がた
くさん生まれた。ではこれか
らの10年であるが、復興とい
うような大きな文脈で皆が
共有できる目標感を持つのは
難しくなる（或いは既に失わ
れている）。その難しさの中
で、これまでの経験や歩みを
これからの10年に活かしてい
けるか、またそのようにし続
けられるかどうかが一番の課
題と考えている。これまでの
復興という大きな熱から、日
常にある小さな熱の一つ一つ
を大事にし、大きくしていく、
そのような地域の在り方が重
要になる。

それとともに、「あの日」以
降の日々からの学びや経験を、
震災そのものの教訓とともに
必要とされる方々に伝え続け
ていくことが一つの役割であ
ろう。そう考えると、いくつ
かの自問自答が生まれてくる。
例えば、よく震災の「風化」
ということが言われ、メデイ
アでも取り上げられる。その
時に被災地の声として「忘れ
ないで」という声で紹介され
るが、「私達・被災地の今、現
状」といったものはどうし
たって風化するし、忘れられ
るのが当たり前である。そも

そもあんなことを経験するま
では私達だって忘れていた側
だったのではないのか、とい
う自戒もある。だから、「忘れ
ないで」と他者に委ねるので
なく、私達自身が「忘れられ
ないようにどうするか」が大
切なのだと思っている。

また、私達の経験を私達自
身が忘れてしまっているの
はないか、と思うこともある。
大震災での原子力災害により
福島の方々への差別が各地で
横行したが、それは広域がれ
き処理への拒否など私達を含
む東北全体にも向けられた。
身近な例では、町内の水産加
工業者が各地のイベントへ出
店した際に「毒入り（放射能
汚染の意）を撒き散らす人殺
し」と見知らぬ人に突然罵ら
れ、がれき処理受け入れへの
謝意として2012年10月
に日比谷公園にて「女川サン
マ収穫祭 in 日比谷」を実施
した際は、Twitter
を中心にSNSでは「放射能
サンマをまき散らしに来るの
か?」「恩を仇で返すとはこ
のこと」等々の誹謗中傷が一
部の心無い人と知識の無い人
(サンマは遠い外洋で漁獲さ
れたものです)によって展開

された。もちろん、ほとんど
の人々はまともな理解をし応
援をしてくれていたが、大な
り小なりそのような経験をし
た方も多いだろう。それが今、
既視感のように各地で、もし
て地元でも起きています。言う
までもない、コロナ差別であ
る。「正しく怖れる」ことの重
要さを誰よりも知っているの
は我々自身ではなかっただろ
うか?

前向きなことも後ろ向き
なことも、失敗も成功も、絶
望も希望も、この10年誰しも
が、どの場所でも色々あった。
「この課題が片付けば万事幸
せでうまくいく」なんてもの
はどこにもなかったし、これ
からは、「あの日」からの歩み
のように、前を向いて歩み続
けることだし、その輪を大き
くしていくことなのだと思う。
そうしていくことで思考と知
恵と行動が生まれる。そして
それはこの10年の中に確実
にあった。これからの10年も
そのようにして行けたならば、
課題は課題でなくなるはずだ
し、言い換えれば、課題は私
達自身そのものの在り方であ
ろう。

特集1「東日本大震災から10年」 特別テーマ

震災復興と石巻市芸術文化復興財団

石巻市芸術文化復興財団理事長 阿部和夫(29回生)



当財団は平成元年に石巻市が設立した公益財団法人で、当市における芸術文化の普及振興を担い、三十年が経過しました。その間、松竹大歌舞伎、劇団四季のミュージカル、NHK交響楽団のオーケストラ公演等、その他著名なアーティストによるコンサートなど数多くの公演を取り上げてきました。

当財団は、石巻市民会館と石巻文化センターの管理運営を担っていましたが、平成二十三年三月の東日本大震災が事態を一変させます。両施設とも津波の被害を受け、使用不能な状態となり解体されました。市民にとってステージのある施設を失う危機的状況に陥りました。財団では、こ

のまま何もせずにとだ時間だけが過ぎていくようでは、震災に埋もれてしまおうと考え、これまでも学校に対して行ってきた「アウトリーチ事業」に活路を見出すことにしました。

これは、市民の身近な場所へ演奏家を派遣し、生の演奏を届けるといえるものです。これまでの小中学校だけではなく、避難所を会場に実施し、やがて仮設住宅集会所、福祉施設、病院、お寺、幼稚園等に拡充して延べ三百回を超える演奏会を開催し、多くの方々に喜んで貰い感謝されました。特に被災した人々にとっては、気が休まることのない生活を送る中での演奏会でしたので、限られた時間ではあっても、素晴らしい時間を皆さんとともに共有できたことと涙を流しながら感激されたことが印象的でした。震災後、この事業を展開する中で、人々への心の癒しとなり、ひとときの安らぎを与えることができる芸術文化の重要性を改めて認識する

機会となりました。

震災後、石巻市における文化活動の拠点施設は、小規模ながら、河北地区の「ビッグバン」及び河南地区の「遊楽館」が利用可能でしたので、この両施設を活用しました。大ホールが存在しない状況下では、大規模な公演は「ビッグバン」のアリーナを会場とするしかありませんでした。劇場とは異なる環境ですので演出や舞台構成上、公演内容が制限されて設営に係る経費負担が大きくなるなど、事業内容を選定する上で大変苦労がありました。出演交渉を行う中で、被災地である石巻市の地域事情に理解を示してくる公演団体もあり、市民に喜んで貰える公演の招聘が徐々に可能となってきました。震災復興の文化事業は、市民の心の復興への後押しにつながったものと確信しています。

設は約三か月間臨時休館の措置が取られました。このことに伴い、あらゆる文化活動は休止を余儀なくされ、財団が主催する各種事業も中止や延期の措置を取らざるを得なくなり、一気に芸術文化の灯が消えていきました。それにどう対処したらよいのか、また、この状況がいつまで続くのか、まったく見通すことができない中でしたが、徐々に多くの施設が再開され、新たな生活様式のもとでの市民活動が再開されるようになりました。制限はあるものの、市民による文化活動も再開したことで、文化施設は動き始めました。十月には新たな計画に基づいたホールを会場とした事業を実施することができ、多くの市民が会場を満たしてくれました。

現在、石巻市では開成地区に復興のシンボルとなる石巻市複合文化施設(ネーミングライツで「マルホンまきあーとテラス」となる見通し)を整備しており、令和三年三月のオープンに向け準備を進めています。被災した石巻市民会館及び石巻文化センターの後継施設として、大ホール、小

ホール、ギャラリー、研修室などのほか、博物館機能も兼ね備える複合施設です。当財団がこの施設の管理運営を担うこととなりますので、現在はオープンに向けた準備業務を急ピッチで進めているところです。この施設が、多くの市民が集う新たな交流の場として機能するよう、その環境づくりに努めていく必要があります。また、複合施設であるため、これまで以上の施設規模となります。施設の維持管理、そして施設を活用した事業を展開していくためには、それなりの財政負担が伴います。現在の石巻市の厳しい財政事情の中で、この施設が単なる「ハコモノ」とならないようにするには、石巻市が掲げる文化復興施策とその財政的裏付けが大いに関わってくるところです。財団としては、市民による文化活動と協働しながら、地域に根ざした活動の推進にも努め、市民との意識共有を図りながら創造的な事業を発信していきたいと考えています。このためにも、芸術文化の復興に対する石巻市の財政面における理解を強く望むものです。

(令和三年一月記)

愛する地域を未来の笑顔につなげます

石巻日日新聞株式会社代表取締役社長 近江弘一（49回生）



東日本大震災から10年が経ちました。

震災当時は私が愛して止まない大好きな故郷の海、そして地域は、復興への足がかりを探してさまよっているかのように思える状況でした。現在は津波で被災した多くの住宅地が住めない土地や公園化され、多くの人たちが移動しました。

私は、1958年、宮城県石巻市のはずれにある渡波という地区で生まれました。そこは夏になると公営海水浴場になる遠浅の海岸があり、生まれてから高校を卒業するまでずっと遊び場でした。その後一旦は東京に出て大学を卒業し、地元で海にかかわる事業に参画して永くま

い進していました。そうした中で、2006年の3月に2年間介護してきた父

親を亡くしました。そしてその

時に父の生き方に学んだものは「地域と共に生き、地域に貢献すること」でした。それまで、24年間勤めた会社の役職をすべて退任し、4月からは「コバルトレ女川」という社会人サッカークラブを設立、活動を開始しました。さらに6月には石巻日日新聞社に業務改革担当取締役として就任し、事業再建というミッションをいただきました。

私にとって「コバルトレ女川」と「石巻日日新聞」というこの二つの活動は「地域の活性化に貢献する」という生き様に変えた私にとってとても大事なツールです。当時から叫ばれていた地方の人口減少、少子高齢化の進行に歯止めをかけ、未来の世代に送り渡す活力のある地域をつくるための情報を発信し、地域内の活動人口を増やすことが目的でした。

「石巻日日新聞」は、女川町を含めた石巻市、東松島市の2市1町を発行エリアとしている大正元年の創刊で幾多の困難を地域と共に乗り越えてきた地元の代表紙であり、その活動は

地域の情報配信だけに留まらず地域の教育育成、スポーツ振興に大きな役割を果たしてきました。近年の活字離れ、インターネットの普及の中でその活動の勢いは衰えながらも地域からの信頼に揺るぎはありませんでした。

今回の震災では、電気をはじめとするインフラが破壊され、輪転機も動かず、本来の新聞の発行が出来なくなった状況で手書きによる「壁新聞」の発行を続けましたが、その思いと行動は、「地域の人たちが必要とする正確な情報をきちんと選び、届けること」であり、地域新聞が存在する意味であるということを変更して再確認しました。

そのことは震災前の5年間に社員に唱え続けてきた「地域への貢献」そのものであったと今でも確信しています。

また、「コバルトレ女川」は、選手やスタッフも自らが被災していたとは言え、被災地ではない全国各地からチームに参加しているその境遇は、家族の命も含め、すべてを被災している地元の人たちへのそれまでの感謝という意味においても水や物資の配給など二次救難活動に参加することが必須でした。コバルトレ女川という体力のある若い選手た

ちは貴重な人材であり、チームとして活動することによって「地元に必要な人たち」という評価をしてもらえたことは、その後のチームの大躍進の大きな一因となりました。チームは1年間の活動停止の後、2012年から東北社会人リーグにて活動再開を果たし、2018年にはアマチュア最高峰のJFLに昇格しました。現在は東北社会人リーグに降格したものの再昇格を目指し、活動しています。

震災当時から数年は、新しいものを作るために古いものを壊していくことが必要でした。

ガレキの撤去、交通インフラの再整備、高台の居住地造成などの事業は全てが行政主体になり、我々民間事業者は多様な救済制度を探りながら、暮らしや産業の再生に必死に挑んでいました。

産業再生においては、震災翌年の2012年の夏ごろから石巻市と女川町を中心としたそれぞれの若い事業者を集めて、これまで培ってきたマーケティングの知識と経験から、小さく協力をしながら産業再生を進める地元産品のダブルブランディングによる6次化推進を進める活動をしておりました。

その後その縁で、女川町の公民

連携によるまちづくりを推進する民間会社「女川みらい創造株式会社」の設立、駅前商店街の設計、整備、運営に直接かわらせていただきました。その事業も2020年7月をもつて3期6年で与えられたミッションを果たしたことを確認し、地元の次の世代に引き継ぐことができました。

これからの地域の未来を背負うのは、子供たちであり、そこには育てる暖かい家族、育む優しい地域が必要です。

過去には皆が直接地域に帰属する意識を強く持つて暮らしていたところから、高度成長を続ける過程で、会社や組織への帰属意識に変わり経済動向や社会情勢など、有益な情報はかりを求めるところになっていったのではないのでしょうか。

現在のコロナ禍ではリモート環境での活動が増え、帰属先がどこなのかも迷う時代になりつつあります。このままでは、暮らしと地域の接点が無くなっていきます。私はこれからのまちづくりが本当に未来の笑顔に繋がるものなのかを多くの皆さんに問いかねながら、自らも直接活動していきたいと思っています。今、大人たちが本当に伝えるべきは、残すべき「地域の未来」ではないのでしょうか。

女川をみつめ続けて

女川元気会会長 村井善郎(37回生)

大災害から10年が経過した。女川の復興は着実に進み、令和2年8月小中一貫教育の女川小中学校(写真1)も竣工した。しかし未来へと歩き出そうとしている故郷女川とどう関わっていくのか解らないでいる。

平成23年3月11日の東日本大震災被災の後、私の故郷女川とはしばらく連絡が取れなかった。情報もなかった。3



写真1 女川小中学校 令和2年8月竣工 by産経フォト 女川町地域医療センターの上は女川湾 学校左は町役場 学校上は女川町地域医療センター

日後朝日新聞の号外に女川の惨状が載った(写真2)。「破滅的」と表現されて仕方がないほどの被害であった。友人、知人の安否を思うと居ても立ってもいられない。故郷のために何かをしたい、行動したいと切実に思った。

暗中模索の作業が始まった。伝手をたどり、いろいろな方と連絡を取り合い、なんとか4月7日「女川に元気を送る会」が結成された。歯を食いしばって頑張っている被災



写真2 破滅的被害 by朝日新聞号外 平成23年3月13日 (上)万石浦 (下)女川湾

地の人達に頑張れなんて言えない、せめて元気を送りたい、と考えての会の名称だった。活動の開始が早かったことも幸いし、約1200万円の義捐金を7月に町に届けることが出来た。

残念ながら震災後数年経過すると世の中の被災地への関心は薄れて来る。そんな中で町の人たちは「忘れられてしまう」ことを恐れていた。私達は活動を「女川を忘れない、女川の人に寄り添う」とに軸足を移すことにした。会の名称も「女川元気会」に変更した。

「会の方針に従い女川地域医療センターに勤務した。病院の職員も、町の人達も「女川のひと」として受け入れてくれた。また道路建設予定地に建てた稲井仮設の巡回医療も経験した。そこには女川、鷲神以外の地区の人達が多く入居していた。復興住宅の建築が進むと、仮設を離れ新居に引っ越す人達が増えた。そして表情に希望と明るさが戻ってきたのである。須田女川町長の言葉を借りれば、「当たり前前の生活を借りれた」だけなのだが、私までが嬉しくなったものだ。

私たちは毎年東京圏から慰霊の旅としてツアーを開催した。慰霊の旅

の都度、いろいろな女川の人達と交流した。千年の石碑建立に協力し、皇后陛下御歌碑建立に関わったりもした。東京近傍に物産展があれば、行って手伝い、コバルトール女

川が来れば、千葉まで応援に行った。一つ一つは小さな活動だったが、いろんなことに会として顔を出すことによって、女川を想う私達がいるよ、という気持ちは町の人達に伝えられたのではないだろうか。復興も進んできた段階で、支援という段階は終わり、次の段階に進む時期でもあった。会員の老齢化が進み、また故郷への気持ちは変化して来ていたこともあった。平成29年からは「おながわ会」と名称を変え、自然と人情にあふれた故郷と「共助」で関係を構築していくのが良いのではな

いかと構想している。ところで写真2をじっくりと見て欲しい。万石浦から女川に入る幹線道路である中央の縦の道路に瓦礫がない。町の人々は被災直後単に悲嘆にくれるだけでなく、町の動脈の確保に迅速に乗り出したと思われる。重機など使えるものも少なく、ほとんど人力で行ったらしい。故郷の人達は強いのである。これまでも支援に行った私たちが逆に勇気づけられることを多々経験した。感謝して筆を置きたい。

特集2 会員からのお便り

懐かしい母校グラウンドでのひと時

亀山 兵吉 (23 回生)

今から60年前になろうか、私は母校石巻高校のグラウンドの芝生に寝そべって空を見上げていた。白い雲が形を変えてゆつくりと動いてゆく。

私は、昭和20年に満州の奉天第二中学校に入学し、昭和21年に満州から引き揚げて父の故郷である稲井の水沼に辿り着いた。

祖父は私に「戦争で焼け野原になつた街を立て直すには大工が必要だ。横浜に親戚がいるから行ってみないか。」と薦められた。

警察官だった父は戦犯容疑でシベリアに連行され、学費など出して貰えない身であることは分かつていたが、どうしても勉強したくて、石巻中学の教師に就職したばかりの兄に頼み込んで2年生への編入試験を受けることになった。試験担当の先生が「(A+B)の二乗



「Time goes by」 遊佐和花(石高・美術部)

切れ端ぐらゐは失敬してもという感覚が働いたのである。引率の先生は私たちを列に並ばせて「ポケットのものを出しなさい」と言うなり一斉にピンタをくらわせた。罪の意識のない私たちに盗むこ

は？」と問われて私は臆面もなく「Aの二乗プラスBの二乗です」と答えた。

先生は兄に「1年生からやり直したらいいですね」といわれて、兄は「私が責任もつて遅れを取り戻しますから」と頼み込んで、何とか2年生への編入が許された。

2年生の期末テストの結果が発表され、73位だったので自分なりにまずまずと思ひ兄に報告したところ「10位以内でなければダメだ」と叱られ、それから毎晩1時2時の猛勉強が始まった。空を見上げていると色々な情景が浮かんでくる。

工場見学でゴム製品の工場に行った時の話である。参加した誰もが無意識にゴムの切れはしをそうつとポケットに忍ばせていた。当時ゴムは貴重品であり、残骸である

とへの戒めを教えたかっただろう。

食欲旺盛な食べ盛りの私たちは、弁当を昼まで待てずに、教室の裏にある狭い控室で食べ、気に入らない科目の授業はすぼかしてエスケープと称してグラウンドに出てサッカーボールで遊んだものだ。

放課後上級生から全員集合の声がかかり、体育館で整列させられてまずお説教、ついで生意気なやつと名指されたものがピンタを喰らう。いわゆる戦前の鉄拳制裁の名残りである。私はサッカー部に所属していたので、先輩が呼びに来て制裁は免れた。

中学3年生になり、抗議運動が起り鉄拳制裁は廃止となった。当時のサッカー戦法はフォワードが5人制で、私は地区大会の予選では左ウイングを担当した。開始間もなく相手のゴール前で左足でシュートしたのがダイブキックに猛烈なタックルを受け、左足に大怪我を負い、赤十字病院に担ぎ込まれてサッカー生活はピリオドを打った。

私たち23回生が新制高校の第二期生である。高校では美術部に属し、専ら絵画や、当時カラー映画が登場したのでその鑑賞が日課となった。私は兄の影響を受けて数学に興味を持ち、数学の先生とのやりとり、例えば、先生「どうせ君たちの頭ではこの問題は解けないだろう」

私「どうしてどうして、これがその解ですよ」

と言ったやりとりが楽しくてやり甲斐を覚えたものである。

私が母校を訪れたのにはわけがある。事業に失敗して多額の負債を抱え、これからどう生きたら良いのかと失意のどん底に陥つたのだ。有名なお寺に出かけてみたが答えがわからない。いっそ人生の出発点に戻ってみよう、そんな思いで訪れたのだ。

最後の旧制中学一年 古座 明郎 (24 回生)

昭和20年8月15日大東軍戦争敗戦。来年度からの学校制度の変更に不安を持つていたが、10月末に来年度までは旧制ということが決まり、進学受験準備のため放課後の補修授業が始まった。翌年の3月県立石中を受験、合格。合格者発表版に自分の受験番号を見た時の喜びと興奮は今でも記憶鮮明。

翌4月登校。入学式の有無についての記憶はない。登校時の服装は同期生の殆どが戦闘帽と胸に名前を縫い付けた普段着下駄ばき、校舎は木造建築故下駄を草履に履き替えて入室。放課後は掃除当番の生徒が雑巾がけで清掃。教科はThis is a Penから始まった英・数・国・理科など小学校で学んだことは違ったレベルの高い内容にふれ授業は大変楽しかった。グラ

丁度夏休みで人っ子一人見当たらない。静かなグラウンドの土も草も、何か語っているように思えた。

「かつて君はここにいた。ここから社会に出て行ったじゃないか。人生はこれからも続く。必ず道はある。ゆきなさい。」そのような声が聞こえたような気がした。

25年の行政書士の仕事を終えていま 齢米寿。想いが尽きず、只々無性に懐かしい。

下における体操はズボンの裾を捲くり裸足で行い、終了後は足を洗って入室。

部活動は運動部と学芸部などで入部への厳しい強制はなかった。私は軟式野球部を選択。因みに中3の時、高校の野球部は甲子園に出場。クラスでは各地区からの級友とも時が経つにつれ親しさがまして、湊地区で育つた私にとってはクラスの友人との会話が思考の視野が広がり大変有意義であった。

一番怖かったのは、第二体操場における正午過ぎからの連日の応援歌の練習であった。最上級生(5年生)の数名のリーダー格が応援旗を振り、その他の先輩は中4から中1の整列の中に見回り歩いて、声が小さいと怒鳴られ、姿勢が悪いと言つて殴られる。約40分余は本当に怖さで緊張し続けたことは今で

(次ページへ続く)

も忘れられない記憶だが、時が経てばそれもまた懐かしい思い出もある。

終戦後しばらくして戦争からの復員してきた上級生もおり、その中の数名ではあるが、海軍戦闘帽に半長靴で

震災後、やっと辿り着いた日和山

佐藤 允俊（24回生）

煙草を吸いながら体操場に土足で入り、何やら大声をあげていた。恐怖でその場を走って逃げたのを覚えている。戦中から戦後への中で思考基準が急変していた時代であった。

なTEL。自治会のスーパ保持水を

10ケース、団地の皆さんからセーター、ジャケット、ズボン等防寒着多数寄付。私は家のお金を掻き集め、スーパで

買える丈女性用の下着を買う。只乾電池は1個も買えなかった。20リットルタンク5個に水道水を詰め、スプリングが折れそうな車で15時ごろ出発。

東北道のSA毎に5リットル・10リットルと給油。福島県に入ると道路の傷み酷く、50km以下の走行。SAは全て閉鎖。宮城県に入ると1車線のみ走行可。泉インターで降りたが、広い道は通行止め。暗闇の農道は亀裂や崩落、5km以下の速度でも怖い。

6時過ぎに前谷地に。割と新しくした家は無残な状態。家族は物置小屋暮らし。水を降ろし石巻へ。道がさっぱり判らず行きつ戻りつで関口邸へ。玄関まで水が来たが新築で被害なし。然し被害者を3家族収容していた。病院への荷物を頼み石巻小傍の弟宅は、瓦が落ち壁に穴が開いていたが、

被災した友達3家族が同居。どちらも誰の家か判らない状態だった。弟夫婦と日和山へ。石高は被災者多数。

私は昭和19年・5年生の2学期終わりに石小に疎開。敗戦直前の8月受験勉強で登校。空襲で帰宅途中グラマンの機銃掃射を受け危うく一命を取り留めた。同居していた母の妹は微用で仲瀬の村上造船で爆撃を受け、

瀕死の大怪我！バレー部先輩の23回生佐藤亨さんは定年まで山西造船に。父の母校門小・6年時の担任、4回生の阿部四郎先生宅・同級の樋口健一さん宅・弟嫁の菩提寺23回生樋口さん住職の西光寺・松露を捜し、焚き点けの松葉を集めたひばり野海岸の松林等々。

然!!生まれ故郷では無くても物心を付け、人格形成をしてくれた石巻。戦争で生まれた家も5年間通った小学校も無くなった身には故郷以上の街。何もない仲瀬・門脇・湊!!自然に涙が溢れ、嗚咽が停まらない。

10年経つても目に焼き付いた忘れられない情景は終戦直後の東京とタフっている。

大震災復興行脚・自転車日本縦断3485km

…忘れまじ大震災 伝えよう子々孫々に… 明石 公夫（34回生）

震災の翌年8月、東京在住の私は、単独自転車で稚内から鹿児島までの日本縦断を決行した。その主目的は、被災地の一日も早い復興を願い祈り、また、兄弟、友人等の生々しい震災体験や教訓を全国に発信することであった。そのツールとして、「がんばろう震災復興」のタスキ、自分なりに作った「災害時の心構え3カ条」の名刺と復興ソング「花は咲く」の歌詞カードを各々300枚、その演奏のためのハーモニカを持参。被災地では激励の言葉をかけ、海を眺めては同級生、親戚など震災で亡くなった多くの方々へ、鎮魂の祈りを奉げる。

道中は道行く人、宿泊先、コンビニ二店、食堂、道の駅、連絡船の中等、様々な場所で積極的の人に声をかけ、名刺を渡しながら震災の教訓を伝え、

人が多く集まる観光地等では復興ソング「花は咲く」をハーモニカで演奏。私が石巻出身と名乗り、故郷に寄せられた支援に感謝し御礼を申し上げると、皆さん熱心に耳を傾けてくれた。「子や孫にしっかりと伝える」と語ってくれたお爺ちゃん、泊った多くの宿泊先や故障修理で立ち寄った自転車屋さん等では、HPで震災の心構え3カ条を紹介してくれた。また、それを大きく書き写し、フロントに張り出した旅館もあった。更には従業員は災害訓練に利用すると言うホテルも現れた。

縦断中は暑さ、雨、台風、峠、トンネル、更には30kgの積み荷も69歳の体力を容赦なく奪い、また、転倒、故障、腰痛、疲労脱水等々、色々アクシデントも重なり、明日はどこまで走

れるのか？生きて帰れるのか？毎日が不安との戦いでもあった。そんな状況の中、出発から52日目、九州南端の指宿市に到達した。そして最後の最後に、この縦断を朝日新聞（九州）が取り上げ、復興行脚を後押ししてくれた。

復興行脚は個の力の限界を知らされ課題も多く残したが、私の意図するところは少しは伝えられたかなと思う。地震・津波、台風、火山等々の自然災害が多い日本、尊い命や財産を守るため、大震災の教訓を私たち一人一人が語り部になり、子や孫に伝承していく責任があると思う。今日も日本のどこかで誰かが、あの震災教訓を誰かに語り伝えていっていると思いが、静かに余生を過ごしている。



「きつねの嫁入り」 伊藤睦(石高・美術部)

《会員からのお便り》近況ハガキ(各回生)

①出身中学校②クラブ活動名③職業(現在または現役時代)④趣味・特技⑤近況報告

19回生〜27回生

村井昭郎(19回生)

①旧女川小学校③教師、国家公務員
会社役員④日曜大工⑤大東亜戦争
の始まった昭和16年、旧制石巻中に
19回生として入学。戦中3年生で海
軍甲種飛行予科練生として中退。戦
後20回生に復学編入。同級生が人の
倍あるということは大変嬉しいこ
とです。しかし年齢93歳ともなると友
人たちが逝れて、淋しい位に少なく
なってしまうました。東京鰐陵会の
皆さんと年に一度お逢いするのが
唯一の楽しみでしたのにコロナ禍
で総会中止。なんとも悲しいこと
です。「コロナ」がうらめしいです。早
く収束して欲しいです。余命幾許も
ない私は、もう皆さんとお逢い出来
るチャンスがないかも知れませんが
東京鰐陵会の皆さんの御健康と御
隆盛を祈り上げます。

安住重一(20回生)

①牡鹿半島大原小学校②剣道③
船長(船船700トン)、貨物船
3000トン、冷凍船1300ト
ン④マージャン⑤船船で太平洋
印度洋、大西洋、スエズ運河・パナ
マ運河。冷凍船で、南氷洋、北洋の
カニ母船、大型トロール船でアラス
カ、ケーブタウン。20年の船乗りを
妻との約束で止める。定年まで冷蔵
庫の会社に勤務する。現在92歳で
自宅でのんびり一人暮らし。娘が週
1回(日曜日)に御馳走してくれる

(オールドバー18年物)、送迎付きで
す。これが一番の楽しみでとにかく
オイシイです。

今野 隆(21回生)

①旧制石巻中学校②美術部④絵画
櫻田 巖(21回生)

①旧制石巻中学校②バスケット
ボール部③税理士法人櫻田会計事
務所代表④囲碁、ゴルフ⑤新年1月
10日で90歳になります。この齢まで
こられたので幸せを感じておりま
す。55年前に川崎市で創業した事
務所を長男や職員の手で業務を
行っていますので、安心して日々を
送っています。大震災に負けずに頑
張っている母校が、益々発展するよ
う願っています。

野中 浩(23回生)

①旧制中学②化学部③税理士④酒
俳句、散歩⑤猖獗する悪疫に辟易し
ながら及び腰で事務所、東京に週
参。老人特有の頑固と東北人の反骨
を發揮。政府の方針、意向を尊重し、
早々に60年来の道連れと諸々、g o
t o t r a b e l と洒落込んで参りま
した。お蔭様で気力・体力共に良
好。半人前の身ながらあと10年位
はこの世にお邪魔をしていたい！
米寿とや生き永らへて半夏生 尋子

石川正雄(24回生)

①旧制石巻中学校②図書部③商社
④読書、音楽、麻雀⑤鰐陵の皆様、
お元気ですか？私は近隣に孫孫が
4人いて、それなりに楽しいのです

が、私自身は足がひどく悪く良く歩
けません。週に2回デイに通い将棋
麻雀、雑談、等にて気を紛らわして
おります。しかし気力だけは充分で
色々興味を持っております。加藤
様ご苦労さまです。

伊藤 薫(24回生)

①旧制石巻中学校⑤現在本人は入
院療養中です。よろしくお願い致し
ます。

加藤直人(24回生)

①旧制石巻中学校②音楽部③東京
都中野区職員④音楽(コーラス、ピ
アノ演奏、)⑤小生、大分老化に
至った今日この頃です。しかし歳
並みのことに挑戦せねばと頑張っ
ております。年令については「米寿
(八十八歳)」までは目標としてい
ました。〜退職後にのんびりでき
るようになったとたん多様な病に
なやまされました、何らかの目標
設定が必要ではと思いい目標を決め
た次第です。〜お陰様で今年の秋
には、目標達成ができると思えて来
ました。どうぞ皆さんもそれなりの
『目標』を設定されますよう、ご健康
ご多幸を心から祈念申し上げます。以
上

古座明郎(24回生)

①旧制石巻中学校②中学まで軟式
野球部(その年硬式野球部は甲子園
出場)③兼松株式会社(商社)④ゴ
ルフ、対外国会社員日本語授業、専
門学校グループ日本語授業、川崎交
流協会ボランティア日本語授業(昨
年まで)⑤新型コロナ感染症流行の
ため、果ごもりの生活続行中。

佐藤允俊(24回生)

①旧制石巻中学校②バレエ部⑤本
紙14ページ参照

高山研造(24回生)

①旧制石巻中学校③不動産鑑定士
⑤中学(旧制)高校時代を思うと、
いつも元気を貰います。小生、近く
満88歳になり、年相応の不具合を自
覚しますが、足腰だけは丈夫なので
ボケの進行防止を兼ねて、下手なゴ
ルフ等をして過ごしています。激動
する内外の諸問題の行く末を見聞
したいので、もう少し長生きした
く頑張っています。校友の皆様のご
健勝をお祈りします。

青沼義信(25回生)

①石巻中学校②生物部④写真

佐々木俊文(25回生)

①住吉中学校②新聞部、放送部、バ
ドミントン部③保険業④読書、旅行
⑤経年劣化が進み老々介護の日々
です。東京鰐陵会の活動が楽しくう
れしいです。旧交を暖めたいです。

高橋和雄(25回生)

①住吉中学校②サッカー部③
ファッション婦人服専門店監査役
④国際時事、聖書研究、気の実践指
導、心身統一法、気の呼吸法

武山 勝(25回生)

①石巻中学校③現役時代は化学関
係の製造会社勤務、職種は退職時は
特許業務⑤昨年(令和2年)はコロ
ナ禍に振り回され、塾居生活を余儀
無くされた1年であった。幾つか
あった集りもすべて中止となった
が、そのうちの1つの古文書の勉強
会は、メンバーの提案でオンライン



「ぬくもり」 今野七海(石高・美術部)

で実施することになった。メンバ
ーは高年齢の者が多かったが、メン
バーの中にパソコンに詳しいもの
がおり、彼の助けにより5月中旬か
ら開始した。86歳にして初めての経
験であったが、なかなか楽しいもの
で、12月の最終回にはオンライン忘
年会で大いに盛り上がった。現在の
状況では今年もこの形態で続ける
ことになるが、一日も早くコロナ禍
が終息することを願うのみである。

津田(鈴木)健三(25回生)

②ラグビー部(一時期)③製造業(化
粧品容器)代表取締役会長④ゴルフ、
囲碁⑤現在3つの会社の会長を務
めております。いずれも年老いたの
で子供達に譲りました。譲りはしま
したが、毎日出社しております。年
老いて良かったと思うのが、幾つに
なっても行く所があることです。自
分の会社ですから死ぬ迄通います。
元気で居られるのも、皆さんが迎え
てくれるからです。もう1つ元氣
で居られるのは以下3つのことを、
しっかりと実行しているからだ



「思い出」 岩崎さやか(石高・美術部)

思っています。86歳と7ヶ月になっても月に3〜4回ゴルフを楽しんでおります。3つの大事なこと。よく食べ、よく勉強し、よく睡眠をとることで、100歳まで健康長寿で頑張ります。

中里祐二郎(25回生)

①住吉中学校③年金生活④特になし⑤コロナでどこにも出掛けられず、ボヤボヤしています。スポーツジムで週2回〜3回、水泳やって身体づくりをしています。

浅野貞夫(26回生)

①浦谷第一中学校②音楽部③会社員から停年無職となる(西武デパ、西友常務、エンドーチェーン社長)④ゴルフ(本秋より止めている)⑤足腰は大丈夫だが、頭は老化しており、あまり歩かないようにしている。家内、子供達と暮らし、会社つとめのころの仲間と飲んだり、しゃべったりの会に出ている。今年はコロナで6つの年末飲み会が中止となり、体調維持にケンメイ。

伊藤朝也男(26回生)

①浦谷中学校③証券業

岸野宏四郎(26回生)

②元自衛官⑤現在、85歳になり、入院中の為、誠に申し訳ございませんが、後のご郵送中止して下さいようお願い申し上げます。長い間、大変お世話になりました。有り難うございました。(家族)

崎野隆三(26回生)

①門脇中学校②軟式野球同好会④スポーツ観戦⑤無し 外出自粛中

千葉 滋(26回生)

⑤体調くずしています。妻代筆

芳賀亥八男(26回生)

①前谷地中学校②柔道部③警視庁⑤いつの間にか孫7人曾孫7人と年輪を重ねました。いくつになっても故郷が懐かしいです。日課はパソコン相手に囲碁三昧です。

奥田貞幸(27回生)

①赤井中学校②卓球部④囲碁⑤朝夕の犬の散歩が日課です。

佐々木博(27回生)

①桃生中学校②陸上部④ゴルフ(健常時)、ラジオを聴くこと(現在全盲)⑤現在、全盲の為、長男(彦)代筆いたしました。大変返信が遅くなり申し訳ありません。

徳江 明(27回生)

①石巻中学校②文芸部③行政書士④カラオケ⑤老人会に入り、密を避けながら近所の福祉会館でカラオケを楽しんだり、「成年後見制度」等のテーマで講演したりして、多くの高齢者との触れあいを大切にしています。又、散歩を兼ねて訪問等の方法で一人暮らしの高齢者を対象とする見守り活動を介して、地域

住民との情報交換をしています。

平山貞夫(27回生)

①石巻中学校②サッカー部③相談役

三宅 哲(27回生)

①女川第一中学校②美術部③グラフィックデザイナー④音楽(ジャズ、クラシック)読書、映画鑑賞⑤今後の「おながわ会」の活動について村井善郎会長(37回生)と幹事で検討中(1月時点)。◎昭和63(1988)年頃から東京鰐陵会の事務局が三宅デザインルームに置かれて約30年。その間、物心両面で力になってくださったのが、三菱レイヨンの松川健さん(33回生)だ。まさに「縁の下の力持ち」だった。今更だが感謝申し上げたい。◎令和3年3月28日、待望の石巻市複合文化施設(愛称まきあーとテラス)がオープン。併せて石巻のある婦人団体、石巻の文化芸術活動の端緒となった「カンタータ・大いなる故郷石巻」の歌碑建立を市に提案、認可を得て施工中という(3月現在)。カンタータを作詞した故石島恒夫氏(22回生)の文化活動への貢献は計り知れない。施設が今後の文化芸術活動の拠点となることを期待している。

〔28回生〜32回生〕

小野寺康充(28回生)

①矢本中学校②物理部③元航空自衛隊ジェットパイロット④旅行⑤気力、体力、治癒、力の衰えを自覚しながらも元気に都心生活をエンジョイしています。

成澤 良(28回生)

①小野中学校②美術部③会社役員 総務本部長、常務取締役④写真、旅行、ゴルフ⑤12月15日83歳の誕生日を迎えます。1999年に退社以後は地元自治会役員とか趣味の旅行、写真等。たまに友人達とゴルフを続けています。3年前、隣接地に30坪の土地を購入。家庭菜園、ガーデニング、四季折々の草花を楽しんでいます(特に日本古来の種々)。世界的に新型コロナウイルスが蔓延しています。健康第一に、今後とも宜しくお願い申し上げます。東京鰐陵会役員の方々に深く心から御礼申し上げます。

木村莞爾(29回生)

①飯野川中学校③ANNA④音楽、文学鑑賞⑤年が明けても世間は相変わらず新型コロナウイルス騒ぎ、私はあまり変化のない巣こもり生活の日々です。運転免許証は75歳になった時に返納して、ゴルフもやめてからずいぶん経ちました。友人との付き合いも、一緒に飲み食いは避けて、今はメールのやりとりだけ。身辺は静かです。家飲みの酒も、なぜか「三缶ビールひとつでへ口、さっぱり盛り上がりません。どうしても必要な日用品や総菜は、老妻と連れ立って、近くのスーパーマーケットが徒歩3分なので、ヨタヨタ歩いて買いに出かけます。ただ、呼吸器系持病のある私は、巷のウイルスが怖いので、用が済んだらさささと帰ります。ボケ防止と称して朝は30分ほどの散歩とストレッチ体操、毎月10冊くらいの翻訳ミステリーを読みます。役に立っているんだかどうか。要介護の妻と

は、テレビを見たりして、とにかく顔を合わせている時間が長く、会話が增えました。60年近く連れ添っている間柄で、カビが生えそうですが、そこはそれ、いたわりの言葉をかけて、互いに体の調子を気遣っている今日この頃なのです。「楽しみは春の桜に秋の月 夫婦仲良く便秘の話」

今野勝幸(29回生)

①住吉中学校②バレー部③会社役員④特になし⑤新型コロナウイルスで巣籠もり人生。いつ終息するのか見通しがつかない。毎日のテレビニュースにも飽きている。高齢者の外出自粛ではあるが、仕事は毎日9時〜5時の現役生活を送っている。東京鰐陵会の運営会議もリモートで行い、会議もさすが東京鰐陵会、と思いつつ、82歳の小生もボケ防止を兼ねて参加させてもらっている。早くコロナが終息して鰐陵同朋諸兄と会える日が楽しみです。

高橋伝四郎(29回生)

①十三浜月浜中学校②文芸部④多趣⑤最近の日誌より(コロナに追われて隠遁)*某月某日…夕刻暖かさに引かれて砂浜に行く。潮の香と微風が心地良い。夕日が鰐の尾の様ななだらかな岬に沈みかけている。きれいだ。地上で最もうつくしいと云われている、ギリシャのスニオン岬の夕日より素晴らしい。*某日…美味しい魚が食べたくなったので買い出しに。地魚のキンメダイ・ムツ・アジ・イワシ……の刺身ゲット。少し早目の夕食。ウツドデッキで「浦霞」を左手に舌鼓。*某日…近くの母栽培会社に母取穫の手伝いに。日当〇、〇〇〇円ゲット。

美酒が呑める。*某日…終日水雨(当地としては)だったので読書『孔丘』宮城谷昌光著。*某日…椎茸・みかん・菜花(食用)…沢山採れた。これではばらばら食料OK。*某日…ログハウスの大工作業をする。大分、サボッタ。隣町にコロナが出たとの情報有り。*読みづらいいと思いますので判読をお願いします。

守屋晃治(29回生)

①門脇中学校②柔道部③富士電機製造(株)

木村長人(30回生)

①大塩中学校②陸上競技部③総合商社④ゴルフ、楽器演奏⑤眼以外は五体満足ですが確かな老いを実感しています。楽器の方は眼の悪化で令和2年12月から「休会」です。眼(加齢黄斑変性)の治療を続けていますが最近薄暮から夜の車の運転に難があり、さらなる悪化を心配しているところです。あと5年位はゴルフの方頑張るつもりです。1日1日を大切に過してゆきます。

佐々木努(30回生)

①女川第一中学校②軟式庭球部③電気化学工業(株)④書道、水質分析、読書、etc⑤*前職定年退職後10年間ISO審査員を経験し退職後今に至っています。*現在は千葉県富里市のNPO法人「富里のホタル」という団体に属し、谷津の水田に自生している「ゲンジブ、ハイケホタル」の保護のための自然環境保護活動のボランティアをやっている。*胆のう切除、下肢静脈瘤など経験するも心身ともに元気に過(こ)しております。

首藤光春(30回生)

①石巻中学校②ラグビー部③マスコミ④スポーツ、音楽、読書⑤二大心境(近況報告)心身劣化激しく「八十路入り恋のカケラをポケットに」唯一の夢も希望も消えて行く。(一)昇天やめ今宵も祝い酒選ぶ「ささやかな慰みなり」「東京鰐陵会」よ、永遠なれ!

鈴木賀夫(30回生)

①涌谷中学校②音楽部③テレビ局④旅行・写真⑤日頃コロナ感染を恐れて気にしながらの生活、自宅に籠ることが多くなりました。運動不足を補うため夜1時間の散歩で汗を流しています。しかし一旦緩んだ住民の警戒心は戻らず、歩道ですれ違ふマスク無しの通行人は3割を超える始末。慌てて車道に飛び出して避けて歩く毎日です。皆さんも経路不明の感染には注意しましょう。

高橋 洋(30回生)

①天津山中学校②卓球部③電子部品④ゴルフ、写真⑤80歳になりました。でも元気で趣味のゴルフと写真を楽しんでいます。目標は85歳までゴルフをしたいです。

島山 尚(30回生)

①石巻中学校②硬式野球部③製造業・技術職④旅行、写真⑤平穏な日常を取り戻すべく新型コロナ禍の収束を願い日々静かに生活中。かつての活動期が懐かしい!!目標鰐陵100周年を元氣な姿で迎えたい。

蜂谷国彦(30回生)

①住吉中学校②文芸部③会社員④読書、ゴルフ⑤毎年、墓参のために帰省していましたが、今年は新型コロナ

のためにできませんでした。石巻が年々遠くなるように感じております。30回生のゴルフコンペも80歳を期に2019年秋をもって終了となり、淋しくなってきました。会社のOBとの会合も、コロナのため全くなくなり、月に数回、ゴルフに出かけて気晴らしをしています。コロナ感染の拡大は止まりませんが、2021年は沈黙化して、安心して動けるように切望している毎日です。(2020・12・10記)

松田勝治(30回生)

①石巻中学校②水泳部③総合タム企画(株)代表取締役社長④美術品⑤小平市のコロナ発生率が多摩地区では多い方で、外出も極力控える様にしています。会社はまだ継続中ですが、私自身もそろそろ終活の準備をとも考えて居ます。鰐陵皆様の増々の御健康を祈願して居ます。

奥山興悦(31回生)

①住吉中学校②英語研究部③弁護士④囲碁、俳句、ギター、合唱⑤元裁判官出身の弁護士として、弁護士会活動をするほか、非行少年らと一緒に公園のゴミ収集作業をするなど、さまざまな社会奉仕活動をしている。昨年はコロナのため、趣味であるシニア合唱団も解散し、句会も通信句会となつてしまつたが、継続している。現在は、ほとんど自宅で読書や音楽鑑賞にふけています。

北川洋三(31回生)

①住吉中学校③鍼灸師④太極拳⑤八十路に入りましたが、二応何事もなく元気に暮らしています。地元の人達に太極拳の指導をしています。毎

朝近所の公園に集まって楽しんでます。

桑島 馨(31回生)

①須江中学校②ウエイトリフティンクラブ③歯科医師④スキーバダイビング(40年)、パラグライダー(30年)⑤現在はラグビー関東協会メディカルワサエティのメンバーです。76歳までマウスガードセブンというチームでセブンスラグビーの試合をしていました。

小杉 充(31回生)

①住吉中学校②新聞部④読書、カラオケ、ゴルフ⑤新聞部の同期友人と2カ月に1回づつ、旧交を温めています。柴木、熊谷、木村、河村(33回生)等。連絡は同期の柴木まで。(三郷市・090-2155-4301)

櫻井勝夫(31回生)

①鳴瀬中学校②物理部③不動産会社顧問④スポーツ観戦⑤無理のない程度に散歩や体操をして元気に過しております。

阿部光雄(32回生)

①網長中学校④作詞など⑤事務局の皆様さん!大変ご苦労様です!皆様に御任せばかりして大変申し訳ございません。小生、少々「詩」などを書いておりますので、その中から「網地島」の詩を御送りします。その中から御選びください。宜しく御願いたします。小生は昭和32回生、現在79歳です。第巻は市販中(文芸社)

猪俣 斌(32回生)

①渡波中学校③会社員、製造業、管理職④野菜作り、ゴルフ、スキー、旅行⑤昨年はひよんなことで狭心症(冠動脈の詰り)が発覚し、心臓のバイパ

ス手術をコロナ騒ぎの真只中に(4月)受けました。術後の2日間は傷口の激痛で眠れぬ時間を過ごしましたが、その後順調に回復し、現在は日常生活上何んの制約もなく元気に過(こ)しております。

角田守弘(32回生)

①石巻中学校②ワンダーホーゲル部④聖書を読むこと⑤退職後70歳台は海外旅行に熱中し、80歳台は読書に散歩に熱中したいと思っています。最近読んだ本に、コロナは「恐れることはない、しかし侮ることもない」とありました。皆様、くれぐれもご自愛のほどを。

櫻井庸正(32回生)

①涌谷中学校③会社員・化学会社④囲碁、スクエアダンス⑤年末になろうとしています。新型コロナがひと段落するどころか拡大の一方です。おかげで令和2年3月より活動休止したスクエアダンスサークルは3蜜上問題あるとのこと。再開の目処はたつていません。今年いっぱいまでに再開されればいいかなと思いつながら、とりわけ東



「樹」 庄司茅紘(石高・美術部)

京の感染状況を注視していましたがワクチン接種ができていない現状ではいかにして3蜜を防止するかが焦点でしょう。加齢に伴う体調の悪化を少しでも先送りするために学んだこのダンスでしたが1種の運動療法(ウォーキング)はともかくとして、ダンスの基本理解、或いは聞き取り(認知)能力いずれにしても老人が習うのですから中途半端で限界があるのです。先送りしたいという偽らざる気持ですが、待つてくれないのががゆいです。

芳沢勇夫(32回生)

①女川第一中学校④読書、俳句⑤診察券ばかり増えています。9年間続けてきた菩提寺の(無住寺)卒塔婆書きもやっと後継者を見つけパトントンタッチです。残るは戸隠神社の世話役のみとなり、これがいつまで続くやら。

阿部倫夫(33回生)

①門脇中学校②山岳愛好会④特に記す事項はありません。

堀内文夫(33回生)

①住吉中学校②陸上競技部⑤昨年12月開かれた28回総会反省会出席以来運営委員会にも出席せず心苦しい限りです。その間執行部の皆様には頭の下がる限りです。私も巣籠り生活にすっかり慣れきった生活を送っております。感染拡大が一日も早く収まり、無事次回総会が開催され皆様にお会い出来るのを楽しみに致しております。

明石公夫(34回生)

①中津山中学校②柔道部③電気通信(携帯電話)④スキー・スノー

ボード、オカリナ、ハーモニカ演奏、農園野菜作り⑤人生は笑った回数、笑った時間の多い人の勝ち……：勝手な価値観を引つ下げ、人生後半を生き抜いてきた私。ユーモア、冗句等の笑いは、楽しい人生の潤滑油だ。他人を傷つける笑いはご法度であるが、たわいない笑いの連鎖、笑いの数珠繋ぎは周りを楽しくし、明るくする。人を笑わせ同時に自分も笑うのは、私の最後のリラクゼーションである。笑いにはエネルギーもコストもかからないから、一回でも多く一秒でも長く笑うことを心がけている。笑い癖のある老妻と共に、独自のオリジナルな笑いを探し求め、今日も笑い合いながら人生の第四コーナーを楽しんでいる。

阿部千春(34回生)

①小竹浜中学校②バレーボール部③住友化学工業㈱④農作業・マージャン⑤コロナにかからない様必死に頑張っております。皆様方も頑張ってください。



「日常」 葉原虎之介(石高・美術部)

内崎光劫(34回生)

①大塩中学校②軟式野球部④ゴルフ、読書⑤現在、国分寺市シルバー人材センターで、公園管理の仕事をして居ります。野外での仕事です。歩行も1日9000歩10000歩位歩きますので健康には良いと考え持続して働いております。

武山佑三(34回生)

①住吉中学校③外資系航空会社④ゴルフ、囲碁、外国語⑤病氣療養中ですが鰐陵健児魂で乗り越えます。再会の日を楽しみにしております。

千葉保宗(34回生)

①住吉中学校③自営業④ゴルフ⑤我々34回生は、昨年喜寿を迎え、昨年の総会にて、再会を予定していましたが、コロナの影響で総会が中止となったため、我々の会合も延期となりました。今年も総会が開催される事を信じ、再会を楽しみにしております。それまでに、皆さん健康に注意されて、元気な姿でお会いしたいですね。34回生同期の多くの参加を待っています。

横山征也(34回生)

①河南町立前谷地中学校②新聞部③無職(時折、妻と謡曲)④謡曲(家内と共に)⑤午前、午後と家内と共に散歩及び買物に出かけてます。きわめて元気です。皆様に宜しくお伝え下さい。

浅野勝男(36回生)

①石巻中学校②バスケット部③会社役員④囲碁

阿部長光(36回生)

①大川中学校③広告業④ゴルフ、旅行、家庭菜園他⑤コロナ禍の中3蜜を避けオンライン○○学習、菜園(200坪に野菜、果物等60種類)の耕作、体力維持にウォーキング、水泳の日課です。早期の終息を願うばかりです。

阿部禧一(36回生)

①住吉中学校③税理士④ゴルフ、和太鼓⑤コロナ禍で自由を奪われたように感じませんか。税理士業もクライアントから日程の変更や取り消し、最悪は廃業の連絡、気が滅入ることが多くありました。気分転換をしようとしても、ゴルフコンペは中止、和太鼓の稽古も中止、飲食店のカラオケは自粛、ストレスが溜まるばかりの2020年でした。2021年はオリンピックをはじめ楽しいイベントがより多く開催され、素晴らしい年となるでしょう。

菊池 潔(36回生)

①湊中学校②テニス部③電気設備業④ゴルフ

高橋幸記(36回生)

①蛇田中学校②重量拳部③日本製紙㈱

安住知彦(37回生)

①大原中学校②書道部③歯科医④テニス、囲碁⑤自粛のなか集会や飲食会ができず、趣味に興じています。2021年は鰐陵会が開催されることを期待しています。

阿部 貢(37回生)

①鮎川中学校②書道部③銀行員④卓球⑤以前はゴルフをしておりま

したが、今はグラウンドゴルフ、卓球をしながら元気にすごしております。卓球は週2回、グラウンドゴルフは週3回です。朝夕の散歩もしております。仕事はしておりませんが年金暮らしです。グラウンドゴルフは大会で2回優勝しました。グラウンドゴルフはたくさんさんの友達が出来て楽しいです。みなさんも健康第一に楽しくすごして下さい。

遠藤信雄(37回生)

①住吉中学校②コーラス部③建設コンサルタント⑤《七月三十日記》・通勤は体に良かった。・通勤は読書にも良かった。・仕事は会社が無効率のだった。・コピー機は素晴らしかった。・パソコンのトラブルはすぐに解決できた。・昼食は気が休まった。・案外とサボれた。・退社する理由が簡単だった。・革靴は窮屈だった。・ウェブ会議で同僚の暮らしが分かった。・家事を手伝わないと肩身が狭くなった。・亭主元気で留守が良いは本当だった。・朝ドラ、徹子の部屋はニュースより重要だった。・ノンアルコーラビールの良さが分かった。《九月十六日記》・毎晩マスクを洗い干すようになった。・整髪料を使わなくなった。・油断すると体重が増える。・封筒を開くのが億劫になった。・ゴミ出しをするようになった。・コンビニでクレジットカードを使うようになった。・手提げ鞆を使わなくなった。・時差が嫌いになった。・仕事用にスピーカーフォンを買った。・小説を読むようになった。

積んどく本が増えてきた。筆順辞典を買った。

小嶋英雄 (37回生)

①住吉中学校②ボート部③公務員

④石巻中学校⑤卓球部③会社員(証券営業)④ゴルフ⑤小生、昨年7月転倒により左腕骨折し6か月間ゴルフやっております。年のせいかわれが取れません。

境田憲男 (37回生)

①湊中学校②ラグビー部③港湾運送業④ゴルフ、ダンス、旅行⑤運動は月1回のゴルフ、週2回のバドミントン、週1回の社交ダンスをしておりますが、年令を感じております。

佐藤 悠 (37回生)

①住吉中学校②剣道部③放送事業(報道関係)④読書⑤在籍していた会社で週に2回ほどデジタルニュースの手伝いをしています。5月から在宅勤務になり、同じように仕事は続けていますが、遠出することはほとんどなくなり巣ごもり生活の毎日です。

白鳥隆幸 (37回生)

①住吉中学校②剣道部③無職(元教師)④映画鑑賞、合気道、剣道⑤4時に起床し、朝の散歩から1日が始まる。家事を熟し、新聞に目やり、TVを視聴し、時にはCDを聴いている。そして週に1度は、病院通い…。1日の締め括りは飲酒(週に2回は休肝日)である。就寝は21時になる。私も今年から後期高齢者の仲間入り、残り少なくなった人生を

楽しく過ごそうと思っている。「悠遊自宅」

丹野静也 (37回生)

①門脇中学校②柔道部③総合商社

④夫婦でのゴルフ⑤コロナで明け暮れた1年でした。感染即重症となりうる歳を考えると家に閉じ籠らざるを得ない日々でした。私自身はGOTO何とかは関係なかったですが、この間WEB会議とか今迄考えた事もない経験等は、ある意味新鮮でした。75歳を迎え1年1年が大事な年代となり、旧友達と又飲み語らう日々が早く戻って来ることを今はひたすら願うばかりで、頑張って健康には留意して行きたいと思っております。

山下政志 (37回生)

①門脇中学校②ラグビー部③古民家の古道具屋・山下亭④古代遺跡めぐり、田舎暮らし⑤2021年の冬を迎えて、東京世田谷から単身移住して5回目の冬を迎えます。家庭菜園の野菜仕事もなれました。不便

な暮らしますが、心おだやかに自然にかこまれた水と空気のおいしい暮らしを満喫しています。築100年の古民家です。11月5日放送のテレビ東京「なぜそこ」という番組に出演して動画にて近況報告が出来ました。ユーチューブで、「なぜそこ」11/5日放送で見る事が出来ます。興味のある人はユーチューブで検索してみてください。田舎暮らしの一部をみる事が出来ます。

安住 豊 (38回生)

①女川第一中学校②化学部④読書、スキー⑤東京鰐陵会の皆様にはお世話になっております。コロナ禍で行動が制限され、仲間との集りや好きなスキーなどが中止になって、残念な1年でしたが何とか頑張っていきます。

阿部盛行 (38回生)

①女川第一中学校②柔道部③流通④数独、自転車技士、揚名時太極拳⑤ゴートウトラベルで10月、念願の利尻・礼文島へ。やっと北は稚内から南は西表島まで日本全ての道府県を制覇。11月に健診で指摘された大腸内視鏡の手術で2泊3日(1泊15千円)の豪華ステイ。兎にも角にもコロナで騒がしかった昨年。世の中、いや世界が落ち着いたら結婚50年の今年、スイスへ行きたいなあーと家内と話している此頃です。

荒川憲一 (38回生)

①門脇中学校②バレエ部、演劇部、応援団③教員、至誠館大学、現代

社会学部(東京キャンパス)⑤まだ、働いています。オフアがある限り仕事続けたいとおもっています。今回のコロナ禍で講義のオンライン化など、えらい目にあっています。鰐陵会の発展をご祈念申し上げます。

大林正人 (38回生)

①河南町立須江中学校(当時。今は石巻市になり、中学校も統合されました)②化学部③情報システムの営業↓ソフトウエア等の開発販売会社の総務・経理(2020年7月末退職)④囲碁⑤昨年3月末は、横浜市鶴見のソフトウエア会社で年度末の納品のため、超多忙でした。4月以降はコロナの影響もあり、週3日のみ出勤となりました。エンジニアの退職もあり、株主総会終了後の7月末に退職しました。退職後は、浦賀奉行所関連の講演に参加や横須賀開国史研究会に入会、浦賀囲碁クラブにも入会し、以前から参加している町内会の壮年会(老人会と名乗りたくない老人会)の役員活動等で、余生を過ごそうと考えていますが、コロナで全て自粛。今は散歩とテレビ・PCのお守りです。

熊谷勝義 (38回生)

①湊中学校②ベン・フレンド・クラブPFC③社会保険労務士④テニス⑤関東地区38回生同期会のまとめ役をしています。後期高齢者75歳の節目に同期会を企画しますのでご参集いただければと思います。

熊本正義 (38回生)

①湊中学校③会社員④油絵、ゴルフ⑤◎定年退職後に石油系企業から



「暮れなずむ」 樋口桃華(石高・美術部)

商社系企業へ再就職して約14年。開発部として出店計画作成及び契約締結業務一切を若手社員と一緒に業務を遂行しています。異業種への再就職は自分への挑戦です。◎日課(ルーティン)①朝5時起床②スポーツジム(平日)出勤前60分③通勤時間1H④勤務時間8H(週末)・土曜日、スポーツジム2H、本屋1H/週、映画鑑賞1回/月、SPA2回/月・ゴルフ練習1日/月・日曜日・油絵教室3回/月、散歩(生活信条)・健康一番、働けなくなるまで働く。前へ!!幹事役皆様ご案内ありがとうございます。来年もよろしくおねがいます。良い1年をお迎え下さい。

小池 泰 (38回生)

①中津山中学校②ボート部④水泳

⑤午前は仕事、午後は昼寝、夜は水泳とマイペースで過ごしております。水泳はおよそ30年ぐらい前、盛岡へ単身赴任がきっかけです。皆さんで泳げば、楽しさ倍増。3密だけは気を付けています。

小山慶孝 (38回生)

①石巻中学校②人文科学部③医療医薬品メーカー④ゴルフ、旅行、読書⑤ゴルフや山野の探索を楽しんでいます。元気が一番しみじみ思う今日このごろです。

千葉嘉文 (38回生)

①月浜中学校②軟式野球部

①門脇中学校③旧金融マン④ジョギング、ゴルフ⑤現況は穏やかな生活です。

中島 智 (38回生)

①門脇中学校③旧金融マン④ジョギング、ゴルフ⑤現況は穏やかな生活です。

早川 誠(38回生)

①門脇中学校②吹奏楽部④囲碁⑤「玄関を 出てから気付く マスク無し」2020年は新型コロナウイルスに振り回された1年でしたが、会報が出るころには収束していることを祈りたいですね。昨年は熊谷君の音頭で、安住、丁子君の4人で6月、11月の2回ミニ同期会を実施し、楽しいひと時を過ごしました。今年も、同窓会総会の開催はもとより、総会終了後の同期会にも多くの方に参加いただき、旧交を温めたいものです。

岩崎宏幸(39回生)

①石巻中学校②卓球部、文芸部③銀行・保険④ハイキング、家庭裁園⑤ウィズコロナの世の中で、鰐陵会の皆様のご苦労が十分に推測出来る1年でした。町会の役を背負う者として共感出来るものがあります。さて、震災から10年になります。震災の年の4月より石巻から母を迎えて一緒に暮らし始めて、同様に10年経つのかと思うこの頃です。母は大



「無題」 木村みのり(石高・美術部)

正生まれで、98歳になります。こんな世の中だからこそ、傍らで老いた母を見守れることに何処かでホッとしている自分が居ります。四六時中気を使いながらも、先の見えない今だから、供に乗り越えたい、供に無事で過ごしてゆきたいと願っています。これは全ての人に通ずる思いではないでしょうか。

熊谷道夫(39回生)

①石巻中学校③元国家公務員(旧自治省)④ゴルフ、水泳⑤コロナの感染状況の中で、孫とスカイプで話したり、実際に遊んだりすることが、たまの楽しみです。体力維持のため、あまり密にならないゴルフと水泳は続けています。まもなく東日本大震災から10年が過ぎます。思い出されるのは、旧鳴瀬町(現東松島市)浜市地区にあった亡き父の実家のことです。私も幼い頃に住んでいましたが、津波で全て流され、今は建築禁止地区となっています。現実になくなったものを、心の中で思い出しています。

今野雅隆(39回生)

①石巻中学校③地方公務員⑤人生の第4コーナーを回ってしまっただけ、コロナ渦の結末を見届けるべく、心身の鍛練(スポーツジムなど)に励んでおります。

阿部義治(40回生)

①住吉中学校②生物部③自営(監査受託)④登山、スキー⑤まだ監査の仕事で全国に出張しています。コロナ下の最近ではWeb監査もトライしており、おかげでボケずにアク

ティブにシニアをしています。続けられる限り、やりたいものです。趣味の山登りはやはりコロナ下で自粛しています(おいらく山岳会)。これからは低山からアルプスまで登ろうと思っています。また皆さんと東京鰐陵会の総会でお会いできるのを楽しみにしています。

岩崎久仁夫(40回生)

①石巻中学校②人文科学部⑤新型コロナウイルスが発覚してから約1年、東京は若干減少傾向とは言え、地方は増加の状況で、石巻高校でもクラスター発生とニュースで知りました。普段会えず、連絡稀な友人や知り合いは元気だろうかと気になります。今年に延期されたオリンピックは開催できるか疑問であり、東京鰐陵会も大丈夫かと気になるところです。現状から見ると再度中止も止むを得ないのかなと思います。外出は近場の買い物に運動がてら歩いて行く位で、旅行、遠出はまず無し。日課をこなす以外は自宅で趣味の世界に浸り、早く終息して皆さんと元気に再会できることを願って我慢の日々を過ごしています。

加藤友成(40回生)

①石巻中学校②吹奏楽部③事務機器メーカー(事業経営、マーケティング)④ウォーキング、ジム⑤「経営品質関連団体での企業支援」、「市民大学でのPC教育」等をやっています。「ジムでマスク付の体力づくり」、「Web(Zoom,他)を使ったコミュニケーション」等、すっかりニューライフになりました

た。早く普通の生活ができるといいですね。

瀬川 徹(40回生)

①門脇中学校②生徒会③弁護士④テニス、ゴルフ、ボート(ナックル4)⑤「昨年(2019年)、門中の仲間と石巻、東京で、又、石高の仲間と松島で古希記念の同窓会を行い楽しい1年であったのに、昨年及び今年も、コロナとの戦いの毎日、改めて日常生活の「平穏」の大切さを感じています。そうした状況下でも必死に仕事を続けています。テニスは毎週1回続けていますが、ゴルフとボートは自粛しています。皆さんとリアルにお会いできることを願っています。お互い頑張りましょう。

高橋憲司(40回生)

①住吉中学校②サッカー部④自転車、DIY⑤地域の自治会活動に参加、活動自粛中です。数年前にピロリ菌除菌後内視鏡検査で早期胃がんが発見され、コロナ禍に入院し無事治療退院できました。定期的検査の大切さを再認識しました。

樺澤修三(40回生)

①門脇中学校②新聞部④ゴルフ、旅行⑤オリンピック(?)後の新しい会場での第29回総会に期待します。外出自粛要請の中、朝一番の散歩が日課。最近、孫が一人増え孫々としています。

牧野 孝(40回生)

①女川第一中学校②ヨット部③(株)電通、広告代理業④読書、麻雀、ボート(漕艇)⑤現役引退後(6年

目)学生時代に没頭した漕艇を再開、2〜3回/週、鶴見川を中心にしてシニアローイングを楽しんでいます。

水澤純一(40回生)

①石巻中学校②山岳部③サービスマン、福祉用具レンタル④車、写真⑤日々さまざまな福祉用具(例…介助ベット、車椅子、歩行器等)を取り扱っております。今後できるだけこういった用具を使わずに済むよう、毎日の生活に気を付けて働いております。いつもお世話になっております。寒さ厳しき折、どうぞご自愛下さい。

櫻井政文(41回生)

①矢本第一中学校②新聞部③市議会議員④読書、神社巡り、散歩等⑤現在、東松島市議会議員を務めています。東松島市の課題に取り組み、地域から見える国政課題に関しても提言しています。

佐々木 洋(41回生)

①女川第一中学校②美術部(1年のみ)③金融、自動車、政府(ジェットロ、ジャイカ)④アメリカ史、インド仏教、英語⑤60歳台は「生涯現役」で国際協力活動、本年より70歳台入りで、「一生青春」を心に見孫成長を見守りながら、古木としての自身の生き方を模索する。「壮にして学べば老いて衰えず、老いて学べば…」をモットーにこれから燃焼していきたい。

佐藤幸男(41回生)

①石巻中学校②ペンフレンド部③銀行員、鉄道員④合唱⑤一昨年の5

月末に銀行員で28年、鉄道員で18年、合計46年間の会社員生活を完全にリタイアして、ようやくできた自分の時間を大事にしたいと思い、昨年は地元川口市の「盛人大学」の月2回受講による学び直しや、旅行で楽しんでいましたが、今年は全ての計画がダメになって、ひたすら巣籠り生活です。早くこの災禍が収束し、皆様とも安心して心置きなく再会できる日を待っています。

菅原新也(41回生)

①箕岳中学校②水泳部③教員④俳句⑤菅原若水(じやくすい)の俳号で俳句を楽しんでいます。

沼倉寿男(41回生)

①女川第一中学校②硬式野球部

藤原秀悦(41回生)

①石巻中学校②バスケット部③コンサルト(化学工業)④ゴルフ⑤コロナ禍在宅でパソコンと向き合い10か月余り。運動不足で体がなまって来いています。

阿部敏之(42回生)

①石巻中学校③退職(無職)④ゴルフ・将棋

畠山廣造(42回生)

①湊中学校③元JFEスチール社員④ゴルフ(下手の横好きです)⑤東北大経済を昭和46年に卒業して以来ずっと関西・中国支部でした。平成元年に横浜に居を移し、今は岡山の会社の顧問(非常勤)と年金暮らしです。

村田 彰(42回生)

①石巻中学校②バスケットボール部(1年間)③建設会社④ギター・

ピアノ・絵⑤高校卒業まで11年間石巻で暮し、以来東京・神奈川の生活が52年となり、今は妻とcat2匹(ココ・ハルル)の生活です。主夫業も10年目、妻が1年前からヘルニアで体調をくずし、やつと回復しました。40から始めたサッカーもそろそろです。同期3人と時々飲んですますが、この頃はです。

[43回生・90回生]

伊藤純一(43回生)

①飯野川中学校②軟式庭球部③教育行政職④ソフトテニス、フルート⑤教育職、教育行政職となんとか続いています。以前は自分の体力に根柢の無い自信があったのですが、「健康が何より」と自覚せざるを得ない加齢の現実、ジム頼みで必死に抵抗しております。

小田島孝好(43回生)

①石巻中学校②柔道部③個人コンサルト(IT系)④ゴルフ・ウォーキング⑤予定された多くの行事が開催されず、移動についても制約が入ったり、常にマスクと手洗いをするという皆様と同じ生活を送っております。そんな中、友人の一言が契機となりインターネットの教養講座に出会い、最近楽しみにしております。特に、歴史、東洋哲学など先人の知恵を学び、心だけは自由と豊かさを保っております。

佐々木哲雄(43回生)

①飯野川中学校②卓球部③塾講師④尺八、読書⑤去年は石巻で開催された同窓会に高崎市から車で帰省し、楽しく旧友と話しが出来ました。

来年は古希を迎えますが、生きてゆく毎日の生活上で、生きがいを持っています。

佐藤雅洋(43回生)

①湊中学校②卓球部③会社員④アルトサクソ、卓球⑤欧州から帰国して2年間が過ぎました。帰国後、11月東京鰐陵会に出席し、出席各位と旧交を温めました。丁度その時、天皇陛下御即位祝賀パレードを会場の窓から眺めたことを今でも覚えています。つかの間の安寧も翌年3月から蔓延した新型コロナ感染症と向き合う日々が長く続いています。石巻にも帰省できず自粛の生活ですが風のためには石巻でもクラスターが発生し、学校生活が窮地に追いやられていたとも伺っています。東京鰐陵会も開催中止になり、残念ですが、現役社会人の皆様の労苦を拝聴すると言葉もありません。コロナ禍の戦いとしてゲームチェンジャーに期待されるワクチンがあります。個々の行動変容要求は理解しつつ、その先に見えるPOSTコロナ禍からどんな社会が生まれ育つのか考えさせられます。また、欧州で一緒に仕事した現地スタッフとその家族の安全を願い、心配する日々です。近い将来に希望と安寧が訪れるよう世界の叡知とその行動に期待したい。

若山栄作(43回生)

①中津山中学校②重量挙げ部③洋画家(日本美術家連盟会員)④スイミング、マラソン大会参加⑤風景画を中心に描き、海外に題材を求め旅す

ることも楽しみにしています。昨年4月に「南コーカサス3国」を予定していましたが、突然の「緊急事態宣言」で中止。しかもナゴルノ・カラバフ地域での紛争で絶望的となってしまいました。叶わないと余計に焦れる気持ちを味わうとは思いませんでした。明けない夜はない。思考を柔らかくもち、日々地道にキャンパスに向かっていきます。

半澤竹彦(44回生)

①大原中学校②軟式テニス部③電気通信④軟式テニス

松野 公(44回生)

①門脇中学校④釣り

大坂昌道(45回生)

①住吉中学校②陸上競技部③写真館撮影スタッフ④天体写真撮影⑤46年ぶりに石巻市民となり、写真館で撮影スタッフとして毎日を忙しく過ごしております。主に学校の卒業アルバム用の撮影なので、市内の学校を訪問しています。趣味の天体写真は撮影方法が全く違うため、覚える事が沢山あって4ヶ月経った今でも勉強の毎日です。また市内の様子も一変して浦島太郎状態で、市内を車で走るにもカーナビ頼りです。震災がなければ石巻に戻る決心はつかなかったと思いますが、今は石巻での生活に慣れて、一人前の石巻人として生きて行ければと思っています。日々過しています。

山崎(旧姓)菅野 義一(45回生)

①鳴瀬第一中学校②陸上部③千葉県小学校教員④城跡見学、ロックバンド⑤「三つの目標に向かって」6

年前の退職時に、先輩から「退職後の目標を決めておかないとあつという間には過ぎていく。」というアドバイスがあったので、退職後の目標を考えた。一つは、100名城への登城、次にロックバンドを作り福祉施設等への慰問、そして三つ目が家庭菜園への取り組みだ。退職後、市の青少年センターに週3日5年間お世話になった。その合間に100名城の97カ所を回る。春日山城、新発田城、長篠城の3カ所を残すのみだが、コロナのせいで足踏みをしている。バンドは、安部地区の祭や生き生きクラブのお楽しみ会と呼ばれた。その後はコロナのことで当分の間慰問等できそうにないので、レパートリーを増やすための練習をしている。残念なことに、キーボード担当が都合でやめてしまったので、ギター、ベース、ドラムの3名で活動している。家庭菜園は、ジャガイモ、薩摩芋、サトイモ、落花生、キャベツ、白菜、ネギ、ブロッコリーなど、たくさん収穫で



「涙」 伊藤睦(石高・美術部)

き、子ども達や親戚に送ることができた。除草作業やカラス対策が本当に大変だった。

伊藤 隆 (46回生)

①雄勝中学校②ラグビー部⑤現在 関東ラグビー協会で書記長、競技委員長、コーチ委員長をしております。また、早稲田大学ラグビー部OB会の副会長をしております。

伊藤哲郎 (46回生)

①湊中学校③教員(定年退職)④写真・全国通訳案内士⑤近況についてお知らせいたします。少し時間は戻りますが、元年9月に35年以上勤めた某学校法人の教員を定年退職及び再任用期間を経て退職いたしました。その後2週間ほどハワイ島に私と妻と友人夫婦と共に旅行に行って来ました。朝に夕に夜に、素晴らしい景色を存分に楽しんできました。再訪しようと令和2年5月に滞在予定を立てて航空券まで購入していましたが、コロナが世界中に急激に蔓延して計画は中止になりました。それからはマスク、ソーシャルデスタンス、手洗い等々の生活になっていきます。今は自宅で英語検定の資格指導を高校生や社会人にオンライン授業で教えながら、家の庭を再デザインするためいろいろ工夫している毎日です。以上簡単な近況報告ですが、早くコロナが収束し同窓会が再開催されることを心よりお祈り申し上げます。

牛渡 俊 (46回生)

①蛇田中学校②書道部③会社員⑤5年前に定年退職し、妻と孫の送迎

が日課です。

清水石 功 (46回生)

①住吉中学校③飲食業

及川和彦 (47回生)

①石巻中学校②物理部③システムエンジニア④ボランティア、テニス、マラソン⑤震災から早いもので10年ですね。ただただ実家と連絡がつかないことで親を心配し、テレビを見る度に石巻の惨状に胸がつかれる思いでした。あれから10年、地元で頑張っている鰐陵生や同級生には頭が下がります。当方は、せめてもと宮城、岩手、福島の商品を購入して、ささやかな応援をさせて頂いている次第です。今年64歳でサラリーマン生活も後1年で卒業します。コロナ禍で痛めつけられ、はやぶさ2で元気づけられと、日々生きっております。人生って思ったより波乱万丈ですね。

佐藤 敦 (47回生)

①津山町立柳津中学校②物理部③人材派遣業・役員④ゴルフ⑤64歳になりましたが、まだ元気に働いています。高齢者再雇用会社の社長をやっております。皆に負けないよう、もう少し頑張る予定です。

島山卓弥 (47回生)

①湊中学校②卓球部③医師④ゴルフ⑤東京都江東区にて医院を営んでおります。診療は主に透析患者さんの血管の診察と治療です。石巻同級生の方々と年に数回ゴルフでお会いするのが楽しみです。先日、内海橋が新しく架けられ、湊地区が大きく様変わりしているのを見

ました。インフラが整ったのち、産業が再生してくれるのを願っております。

荒木泰弘 (48回生)

①門脇中学校②軟式テニス③コンサルタント④ウォーキング、家庭菜園⑤コロナ禍にあっても東京まで毎日通勤して、リズムある生活を心掛けており、週末は小さな畑に出ては自然に触れて元気にやっております。ご苦労様です。

鈴木雅芳 (48回生)

①石巻中学校②硬式野球部③弁護士④ゴルフ、スキー

本庄雅之 (50回生)

①門脇中学校②バスケットボール部④演劇、映画、音楽鑑賞、サッカー観戦⑤昨年末で東京中日スポーツを卒業しました。1月28日(本日)、石巻へUターンします。43年ぶりの帰郷です。いろんなタイミングがあつて決意しました。これから、少しでも地域に貢献できればと考えております。ですので、東京鰐陵会からも抜けることになりました。宜しくお願い致します。2月1日から石巻日日新聞で働くことになりました。地域報道に微力を尽くしたいと思っております。

石原正也 (51回生)

①門脇中学校②バスケット部③MOAグリーンサービス④庭いじり⑤門中が2021年3月に閉校、淋しい限りですが、門中魂、石高魂でコロナ禍でも負けず頑張っております。

久保眞治 (51回生)

①石巻中学校②吹奏楽部③国連職員⑤いつもありがとうございます。国連職員として29年目、12ヶ国に赴任しました。最近ではUNHCR駐フィリピン代表として難民・国内避難民・無国籍者の国際保護に従事しております。2021年は本帰国・退職に向けて少しずつ準備する年になります。今後どうぞよろしく申し上げます。

高橋英紀 (51回生)

①矢本第二中学校②陸上部③株資生堂⑤東京鰐陵会の益々の発展を祈念致しております。

安住 淳 (52回生)

①大原中学校②美術部③国会議員④ゴルフ⑤国対委員長として毎日忙しく仕事しております。地元石巻との往来ですが、震災から復興まで様変わりした石巻をウォッチしております。

三浦得雄 (52回生)

①住吉中学校②陸上競技部③日米税理士・社会保険労務士

大橋英之 (59回生)

①住吉中学校②ラグビー部③総合建設業⑤家族全員、コロナに感染することなく元気にしております。

大和優雅 (65回生)

①籠岳中学校②文芸部③映画監督④民謡⑤今年には新型コロナの影響で、予定していた活動ができませんでしたが、ここでくじけず、次回作の準備を進めていきたいところです。

木村祐介 (75回生)

①湊中学校②柔道部③電設資材商社・営業④横浜FCの応援⑤テレワークが難しい業種な為、毎日出社し、仕事しております。幸いこの1年はすこぶる体調が良く、また皆様とお会いできるまで、継続していきたいと思っております。

阿部幸平 (90回生)

①石巻中学校②硬式野球部③大学生④体を動かすこと、服を見ること⑤駒澤大学へ進学し、現在3年生です。授業がオンラインになり、学校へ行くことはありませんが、毎日勉学に励んでおります。



「檻」 千葉咲月(石高・美術部)

《挿絵について》

挿絵は宮城県石巻高等学校美術部の現役生徒作品です。石巻高等学校のご理解と共に美術部の皆様のご協力のもとに実現いたしました。ここに関係の皆様へ感謝とともに心より御礼申し上げます。

ウィズコロナ時代の石巻高校

生徒会長 菱沼輝 (三年)



東京鰐陵会の皆さん、こんにちは。この度、生徒会長になりました菱沼輝と申します。在校生を代表して今年度の石高の様子をお伝えし、今後のコロナ禍での学校生活について述べたいと思います。

今年度は新型コロナウイルスの影響で四・五月の二ヶ月間が休校でした。学校生活は思い通りのスタートを切ることができませんでした。部活動関係では休校中は活動もできず、県高校総体が中止、東北大会やインターハイなどの全国大会も中止となりました。インターハイ出場が期待される部活・選手もただけにとっても残念だったと思います。

学校行事では、体育祭や文化祭も例年のように開催でき

ませんでした。文化祭は代替行事として校内展示や発表を行いました。やはり外部から一般の見学者の方を迎えるスタイルでないため、今一つ盛り上がりませんでした。

ほとんどの生徒が、充実した学校生活を過ごすことができなかったと思います。

しかし、このようなコロナ禍の状況でも、我々石高生は皆で協力し合い、制限された中でも楽しもうと努力しました。そのような姿に魅せられ、リーダーとして活動したいと思い生徒会長になる決意をしました。

私自身、生徒会活動の経験はなく、人前で話すのがあまり得意ではありません。不安な気持ちもありますが、初めての経験で、楽しみでもあります。また、生徒会長になることは、自分自身への挑戦でもあると考えています。

私は生徒会長として実現したいことが二つ

あります。

一つ目は、石高の伝統行事を今の社会にあった新しい形として復活させることです。

やはり、コロナウイルスは世界中での問題であるように、私たちにはすぐに解決できない問題です。私たちができることは一人一人の感染予防ですが、今までのように行事を開催することが困難になっています。今年度は密を避けた種目を中心とした特別な体育大会を行うなどしましたが、今後は安全性を確保した、楽しい行事を一つでも作り上げたいと思っています。

二つ目は、学校全体でスローガンを意識した生活を

していくことです。発案自体は私たち生徒会がしましたが、全員で決めた今年度のスローガン「躍進〜Rise Up Together」(ともに立ちあがろう)。「私は大変気に入っています。このスローガンを主張し、浸透させていきたいです。」

有名なバスケット漫画スラムダンクの主人公・桜木花道の言葉で高校時代が「栄光時代」という言葉が出てきます。高校時代はまさに「栄光時代」だと私は思います。楽しんだ者勝ちです。全校生徒が悔いのない高校生活を送れるように、学習や行事とともに協力していきたいと思

ます。

最後になりましたが、日頃より母校へのご支援ありがとうございました。また、東京鰐陵会の会報誌を全生徒に配布していただきありがとうございます。石高の先輩方がいるいろな所で活躍されているのは聞いていましたが、あらためて広報誌で紹介されている活動の様子を拝見し、東京で鰐陵という共通点でこんなに多くの卒業生が集まり、講演会や懇親会などを行っている団結力、鰐陵愛に感心させられました。今後も石巻高校へのご支援をよろしく願っています。



体育大会 長縄飛び



修学旅行 日光江戸村



文化祭校内発表 書道部パフォーマンス

『総会』運営の変遷について

…また出席したい総会運営を目指して…

東京鰐陵会監事 木村貴則（33回生）



いた変遷を振り返って見ます。

(1)平成17年の総会に参加しての感想

会場は六本木の全日空ホテルで、金曜日の午後6時から開催された。総会の議事進行は懇親会の宴会場とは別の部屋で行われ、議事が終了後に宴会場に移動する方式でした。この総会の運営当番回生は、29、33、37回生と言うことであり、当時33回生の理事を務めていた松川健氏と熊谷正茂氏から次は33回生に主幹が廻ってくるから是非出席してくださいと要請され始めて総会に出掛けました。一部総会、二部懇親会の形式で、参加者は東京鰐陵会のHPの年表によると105名とあります。会場入口で名札に自分で名前を書き、空いている席に座ることになった。廻りは年配の知らない人ばかりで会話も出来ない。式場では一連の挨拶の後乾杯となり料理はビュフェ式で並んで自分で取りに行くのであるが、2回目には殆んど無くなっていった。一流ホテルで1万円会費であるから質は良くても量は十分で無かった。余興に数人の民謡歌手が出て数曲歌って空いている席に座り料理を取りに行ったが既に無かった事を覚

えている。飲み物では、「一ノ蔵」の四合瓶がテーブルに出たが、ホテルに売込を図っていた一ノ蔵酒販の営業だった同期の石島氏が持ち込んだ物と後で知った。廻りの先輩を差し置いて、瓶に手を伸ばす勇氣は無かった。食物の恨みは後迄覚えていた証左です。同期の理事二人とは余り話も出来なかつたし、先輩方がワイワイやっているのを小さく聞いて聞いていたことしか覚えていない。閉会となって二次会をホテルの上階で行うのどうかと誘われたが早々に退散した。

(2)事務局長・会長としての総会運営の改善

2年後の平成19年開催の第19回総会は30回生が運営主幹を務め、ホテル「スクワール麹町」で開催し、133名の参加者を得ました。主幹回生の意気込みは凄く、開催日前日は責任者がホテルに泊まりこんで準備に当たっています。前回総会の反省から懇親会の料理の質と量の改善を図るべく会場を新たに開拓しており、懇親会では部外者の演奏ではなく会員の52回生の心臓外科医・大内浩氏に講演をお願いし大いに関心を集めました。料理の品数を補う意図で、郷土の名品として銘酒「一ノ蔵」と「白謙」の蒲鉾の提供を企画しました。

くれましたが、テーブルに出すことは会場に迷惑を掛ける場合があるので、会場では開けないで手土産にして持ち帰って頂くとうと社長から提案が有りました。そして社長が総会当日に早めに会場に出て来られて、予め包装して届けられた蒲鉾と保冷剤とを保冷バッグに詰めて封印し、手提げ袋に入れる作業を指導頂きました。この時のご縁が今日まで形を替えて継続しております。小生が会長退任後は、現在の佐藤会長は会長の奥様の副社長との中学校の同期の縁で継続して提供をお願いしております。佐藤会長退任後については対応を検討して下さい。

①開催会場の見直し

ホテルでの開催は、経費面と時間の制約が大きく、新たな会場を物色しておりましたが、大学の研究室同期の男が東海大学の教授を勤めていた縁で、会員並みの待遇で東海大学校友会館を使えることになりました。教授が退官した頃には、小生の甥が東海大学ラグビー部の監督を務めており、甥の口添えを得て会員待遇で継続利用して居りました。費用、時間の延長、会場レイアウト等でも無理な要請を受けて貰い助かっていましたが、昨年のコロナ禍の影響で営業を止めたのは残念でした。新たな使い易い会場の開拓が必要です。

②総会プログラムの充実を図る

総会終了後に運営委員会が反省会を開いて議論を重ね、第1部

総会議事、第2部イベント、第3部懇親会の三部構成が固まった。当日の配布資料を充実させ、総会次第、出席者名簿（回生、卒業中学、部活名、着席テーブル明示）、訃報、議事資料（公務報告、会計報告、審議資料）等で総会の内容を簡潔に提示して爾後の参考に供した。食事の形式は、高齢者の参加が多いことに配慮して着席の卓盛り型とした。そして同期生は同じテーブルに座る様に着席表を作成した。第2部イベントの出演者は原則会員として、活躍を紹介することにした。講演と演奏会とを交互に行うことで盛り上げる工夫をした。

③懇親会の運営改善

懇親会は2時間を確保し、内1時間は「歓談タイム」として、舞台での催しを止めてお喋りに徹して貰うことにした。同期生、出席者名簿にある部活の仲間、卒業中学の先輩後輩の歓談の輪が出来ることを期待した。最近の欠回答葉書に現役の勤務先・職業を書く欄を設けているが、堅く感じる感じて参加者が減ることを個人的には危惧しています。

④同期会と総会の同時開催の提案

東京鰐陵会総会に初めて出席した時の話相手の居ない寂しい体験から、同期生の存在の有難さを痛感しました。同期会と同窓会を連携して開催する便利さを認識すると、毎年の開催日が予定に組み込まれ便利です。総会の案内を発送するのが毎年9月末

なので、その時までには同期の理事が事務局長に同期会の開催呼び掛け文章を電子データで届けて貰えば必要部数を印刷して総会の案内状に同封して送る事が出来来ます。是非活用して下さい。

(3)おわりに

最近の総会運営の様子は広報誌『東京鰐陵』に収めて会員に届けていますので、参加なしでも概略の様子を知る事が出来ます。会員の満足度をアンケートで把握することも一つの手段です。皆さんの要望を反映して充実した総会運営を心掛けて参りたいと存じます。

私事で恐縮ですが、我家は、23

特別寄稿 ②

古代史研究と石巻

近江俊秀(56回生)



1. 赤井官衙遺跡群の史跡指定

2020年11月20日、国の文化審議会は文部科学大臣に対し、岩手県釜石市屋形遺跡など12の遺跡を史跡に指定するよう答申した。史跡とは「貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅、その他の遺跡で、我が国にとって歴史上または学術上価値の高

回生の長兄俊一郎を頭に、27回生桂造、30回生景俊、33回生貴則と続きます。歳が一回り違う姉の結婚の仲人は、石高初代校長の野口先生が務めてくれました。家で祝い事が有る度に作るつき立ての餅を、当時石高の校庭の西の端に建てた居た木造三階建ての野口邸に届けるのが小学生時代の小生の役目でした。そんな訳で、石高入学前から兄貴達の友人関係の濃密さを知って居ましたので、自然と同窓会に奉仕する心構えは出来ていた気がしますが、運営の現役は離れますが、後輩の活躍を見守って参る所存です。いつまでも、鰐陵万歳!!

いもの」のうち重要なものであり、「国民の宝」として将来にわたって保護すべき文化財のことである。この中に東松島市の赤井官衙遺跡群が含まれている。この遺跡は7世紀中頃に関東からの移民の集落として成立し、7世紀末には古代国家による牡鹿郡支配のための役所として整備された赤井官衙遺跡と、そこに住んだ人々の墓である総数130基を超える矢本横穴からなる。

7世紀末頃、当時の国家は中央集権体制の構築を目指し、中央には中国の都を模した藤原京を建設し、地方には国(現在の都道府県レベル)ごとに国府

を、郡(郡市レベル)には、郡家という役所を設置した。赤井官衙遺跡は7世紀末の最北の郡家であり、東松島市、合併前の石巻市、女川町のエリアを統治する役所であった。古代、東北北部に住んでいた人々は、中央政府から蝦夷と呼ばれ、異民族とされており、7世紀末頃の牡鹿郡は、国家の支配領域と蝦夷の居住地との境界にあたり、両者が暮らしていた地域であった。

赤井官衙遺跡の7世紀中頃の集落は移民のみによる集落ではなく、もともとこの地域に住んでいた人も共に暮らしており、北海道からの移民もいたことが出土した土器や矢本横穴から出土した人骨から分かった。矢本横穴の墓のひとつからは関東古墳時代人、東北縄文人、北海道アイヌの特徴を示す骨が出土している。出身地が異なる人々が同じ墓に、分け隔てなく埋葬されていることは、この3者は生前も同じ集落で仲良く共存していたことを示すと考えられる。国家の支配領域が北へと拡大する様子が確認できること、境界地域における社会が復元できることが、この遺跡が史跡に指定された理由であった。

2. 五松山洞窟遺跡と新金沼遺跡

1982年、石巻市の牧山の麓で見つかった五松山洞窟遺跡も関東からの移民と地元の人々、北海道からの移住者が共存していたことを示す遺跡

である。この遺跡は6世紀末、7世紀初頭の改葬墓で、確認された人骨は19体で矢本横穴と同様、関東古墳時代人、東北縄文人、北海道アイヌの特徴を示す骨が出土した。また、近畿で生産されたと考えられる金銅装大刀や鉄の甲などの豪華な副葬品と、東日本の海沿いの遺跡でよく見られる鹿の角や骨を用いた鎌や弓の装飾品が出土した。ひとつの墓に様々な地域の人の骨が出土することは、彼らが共に暮らしていたことを示している一方、近畿製の豪華な副葬品の出土は、この地域の人々が古墳時代の国家と密接な関わりを持っていたことを示している。

また、石巻市新金沼遺跡は4世紀代の集落遺跡であるが、そこからは地元のものに混じって北海道や関東の土器とそっくりな土器が出土している。いずれの土器も地元の粘土を用いていることが分析の結果、明らかになったことから、土器のみが持ち運ばれたのではなく、この集落には土器文化を異にする3つ地域の人々が住んでいたことが分かった。

3. 古代牡鹿地域の社会

暖流と寒流がぶつかる全国有数の漁場を抱える石巻は、海との関わりにより発展してきた。漁業はもちろんのこと、江戸時代には外洋東廻り航路の港として、北上川水運を利用した内水交通の接点として、水上交通の結節点として重要な役

割を担っていた。遺跡からみると、そうした石巻の重要性は古墳時代にも認められ、太平洋を利用した南北の交易拠点としての役割を担うとともに、様々な地域の人々が共に暮らす場でもあった。そこに住む人たちは、それぞれの出身地で作られていた土器とそっくりな土器を作り続けていたことからすると、生活文化も異にしていたと考えられる。しかし、ここに出身地の違いによる軌轍があった形跡は認められない。そうした状態が約400年間続いていたのである。

7世紀末以降、中央集権体制による地方支配が強化されると、関東出身者は「天皇の民」、もともとこの地元民と北海道からの移住者は「蝦夷」に区分され、両者が序列化された。国家が編集した歴史書である『日本書紀』や『続日本紀』は、古くから蝦夷を野蛮で未開、「国家により支配される側」と記述する。しかし、ここまで見てきたように7世紀末以前、牡鹿地域では出身地による支配、被支配の関係は認められない。国家の歴史書は誇張や潤色を加え国家にとって都合がよいように編纂している。牡鹿地域の遺跡は、それを見抜き古代国家の成り立ちを正しく評価するため鍵を握っている。そして、牡鹿地域で認められた異集団の共存は、分断が社会問題化される現代において、集団とは何かという問題を考えるためのヒントも与えてくれる。

謡い

令和元年の東京鰐陵会総会では、皆様の前で謡曲（祝言曲）「高砂」を謡わさせていただきました。ありがとうございます。この曲は、明治から昭和初期には、祝言のお祝いとして「高砂や、この浦船に帆を挙げて」と、年長の方がよく謡っておりましたが、平成以降はほとんど謡われなくなっているようです。日本古来の伝統文化が、失われてきたように思われます。

私が能楽の世界に接したのは今から四三年前、二五歳の時でした。神社や仏閣を観ることが好きで、初めて鎌倉にひとり遊びに行った時の事です。鎌倉長谷駅の近くの旅館にとびこみ泊まりました。その時、宿の女将さんから「新能の入場券が残っているので興味がありましたら差し上げます」と言われました。芝居も好きで毎月のように観に行っていたので、「新能」という名称だけしか知りませんでした。興味を持ちました。

「新能」は夕方から始まりました。会場の寺ではちょうど月が出て、秋の虫が鳴きはじめ、笛と鼓の音が響く中、幕が開きました。能面を付け綺麗な衣着た女性が現れ、謡いながら舞を舞い始めました。しかし、私にとっては初めての体験で、何を言っているのか内容も全くわかりませんでした。まるで

吉田祐一（43回生）

鎌倉時代にでもタイムスリップしたような気持ちになりました。この世界をもっと知りたいと強く思うようになりました。当時はまだインターネットなどは無く、なかなか調べる事が難しい時代でしたが、ある情報誌に「能楽講座受付中」という記事を見つけ申し込んだことがきっかけとなりました。

その後、その講座の師匠の弟子となり、現在まで続けています。今では、都内の能楽堂での公演や、文化庁の依頼で小・中学校の生徒に能の鑑賞会を行っています。地元の公民館でも、謡曲や能舞台のことなどを解りやすく指導する講座を担当しています。また昨年、宮城県石巻市の鹿島御児神社にて行う追悼能楽奉納にボランティアとして参加しています。

私は航空管制官として東京（所沢）や沖縄で四七年間勤務し、四年前に退官しました。趣味として始めた能楽でしたが、仕事と両立して続けてきました。これからも体が動く限り精進し、末永く邁進していく所存です。

最後になりましたが、鰐陵会におかれましても今後益々のご発展を祈願し、微力ながらお手伝いをさせて頂きたいと思っております。

ありがとうございます。

狐死首丘

卒業から50年、毎年、夏と冬に懇親会を実施してきました。毎回、全員出席とはいかないがそれでも開催してきました。それぞれ大学、会社はバラバラではあったが連絡を保ち、会を続けてきた。一時は、大阪や、明石といった地域、あるいは海外で会社生活を送ったメンバーもいた。

たまには、宮城に住んでいた皆様との交流会も実施してきました。佐藤（休）の案内で、丹沢の大山、箱根の外輪山、筑波山でも開催してきました。しかし2020年だけは、開催できていない。新型コロナのために中止となった。

また、始めるぞ。何が、毎年懇親会を開催する原動力になっているのだろうか。高校時代の3年間苦しい練習を一緒に耐えたからだろうか。失神もこの時が初めてであった。

合宿の時に、日和山の階段を駆け上がった苦しみを共にわかしあつたからだろうか。朝から吐き気を感じる

鰐陵柔道部 小田島孝好（43回生）

者もいた。また、この合宿の時に、先輩たちに囲まれて怖い思いをしたからだろうか。この時に、2人の先輩から「起きろ」、「寝ろ」と指示が出て、腹筋を鍛えられた者もいた。闇鍋を一緒につついたからだろうか。暖かいミカンはあるの初めて食べた。遠藤以外は、体の小さかった我々が、厳しい稽古を最後まで耐え抜いたとの自負も皆それぞれ持っていると思う。

このような50年続いた同期5人の懇親会は、石高時代に築いた強い絆にもよるが、社会人

になってからも互いの個性を尊重しながら、それぞれが人間の魅力をもって相互に啓発し、価値を認め合い、素直に心を話せる関係を続けてきたからではないかと思っている。これからも（いつか1人欠け、2人欠け、といった事態が生じるかも知れないが（笑））可能な限りこの懇親会を続けて行きたいと、5人一同強く感じている次第である。

【狐死首丘】

故郷を忘れないことのとえ。また、物事の根本を忘れないことのとえ。「首」は、頭を向けること。狐は死ぬとき、自分のすんでいた穴のある丘の方向に頭を向けるという意から。



（左から）小田島、遠藤、高橋、星先生、佐藤（淳）、佐藤（休）

2021年 東京鰐陵会役員名簿(敬称略)

役職	回生	氏名	役職	回生	氏名
参与	34	千葉 保宗	理事	34	武山 祐三
監事	33	木村 貴則	理事	35	平塚 征一
監事	38	熊谷 勝義	理事	36	阿部 長光
会長	37	佐藤 悠	理事	36	菊地 潔
副会長	37	丹野 静也	理事	37	村井 善郎
副会長	37	境田 憲男	理事	38	安住 豊
事務局長	40	加藤 友成	理事	38	和泉 耕二
事務局次長	40	瀬川 徹	理事	38	丁子 幹雄
事務局次長	40	平塚 善伸	理事	38	早川 誠
事務局次長(会計担当)	42	新田 輝夫	理事	40	加藤 友成
事務局次長(会計担当)	43	伊藤 純一	理事	40	瀬川 徹
事務局次長	43	遠藤 洋治	理事	40	斎藤 紀夫
事務局次長	43	小田島孝好	理事	40	平塚 善伸
事務局次長	44	尾口 仁志	理事	41	高橋 兵一
理事	22	鈴木 善治	理事	41	沼倉 寿男
理事	25	阿部 剛	理事	41	山形 明夫
理事	25	中里祐二郎	理事	42	茂泉 吉則
理事	25	武山 勝	理事	42	鈴木 卓郎
理事	27	平塚 久義	理事	42	新田 輝夫
理事	27	三宅 哲	理事	42	田口 敏明
理事	28	成澤 良	理事	43	伊藤 純一
理事	29	今井寅三郎	理事	43	遠藤 洋治
理事	29	岩淵 茂	理事	43	小田島孝好
理事	29	今野 勝幸	理事	43	成澤 貴義
理事	29	千葉 弘二	理事	43	吉田 祐一
理事	29	松川 文隆	理事	44	半澤 竹彦
理事	30	木村 長人	理事	44	尾口 仁志
理事	30	首藤 光春	理事	48	鈴木 雅芳
理事	31	奥山 興悦	理事	49	平塚 仁
理事	31	桑島 馨	理事	52	大内 浩
理事	32	小野寺義昭	理事	55	谷口 大造
理事	32	手代木 扶	理事	56	亀山 光浩
理事	33	熊谷 正茂	理事	56	星野 知倫
理事	33	堀内 文夫	理事	58	浅野 剛
理事	34	久保 文征	理事	59	佐藤 昌克
理事	34	佐藤 洋一	理事	62	成家 新一
理事	34	須田 敏一			

運営資金援助協力者名簿(2021年6月30日現在)

回生	氏名										
12	亀山 純	29	岩淵 茂	33	木村日出夫	37	遠藤 信雄	40	佐々木 進	44	半澤 竹彦
19	村井 昭郎	29	今野 勝幸	33	熊谷 正茂	37	大森 雅司	40	佐々木清光	44	松野 公
21	櫻田 巖	29	鈴木 勲	33	栗原 光男	37	岡部 博行	40	瀬川 徹	45	大坂 昌道
21	佐々木紀雄	29	高橋伝四郎	33	武山 洋治	37	今野 和明	40	高橋 憲司	45	新田 裕史
22	鈴木 義治	29	千葉 慶胤	33	橋浦 武夫	37	西條 紀郎	40	高橋 国一	45	星 裕亮
23	野中 浩	29	千葉 弘二	33	嶋山 勝	37	境田 憲男	40	田村 隆	45	山崎 義二
24	高山 研造	29	守屋 晃治	33	堀内 文夫	37	榑 勝一郎	40	橋澤 修三	46	伊藤 隆
24	石川 正雄	29	山本 久敬	33	松川 健	37	佐々木貞雄	40	萬代 玄	46	伊藤 哲郎
24	貝 啓	30	木村 長人	33	山内 明	37	佐藤 悠	40	平塚 善伸	46	牛渡 俊
24	佐藤 允俊	30	今野 未治	34	明石 公夫	37	白鳥 隆幸	40	渡辺 総一	46	佐藤 浩二
24	高山 研造	30	首藤 光春	34	阿部 千春	37	丹野 静也	41	遠藤 栄松	46	佐藤 賢一
24	手塚 康二	30	鈴木 賀夫	34	内崎 光劫	37	千葉 徹	41	片倉 純一	47	及川 和彦
24	長谷 潔	30	高橋 洋	34	岡崎 國男	37	星 千秋	41	小関 眞悦	47	佐藤 敦
25	青沼 義信	30	高橋 勝弥	34	岡部 勇太	37	三浦 岩男	41	斎藤 巧	47	佐藤 敦彦
25	安住 重則	30	田中栄太郎	34	金澤 洋	38	浅野 正博	41	櫻井 政文	48	明石 和彦
25	阿部 剛	30	寺澤 正興	34	北川 淳	38	安住 豊	41	佐々木 洋	48	荒木 泰弘
25	高橋 清記	30	嶋山 尚	34	久保 文征	38	阿部 盛行	41	佐々木 清	48	植松 正彦
25	武山 勝	30	蜂谷 国彦	34	西條 修	38	荒川 憲一	41	佐藤 幸男	48	加藤 博
25	津田 健三	30	半澤 哲志	34	佐々木孝三	38	熊谷 勝義	41	菅原 新也	48	木村 成一
25	水澤 昇	30	松田 勝治	34	佐藤 洋一	38	熊本 正義	41	高橋 兵一	48	鈴木 雅芳
26	浅野 貞夫	30	渡辺 武	34	武山 佑三	38	小池 泰	41	沼倉 寿男	48	水澤 茂
26	菊地 上	31	阿部 弘	34	千葉 保宗	38	小山 慶孝	41	山形 明夫	49	千葉 英明
26	崎野 隆三	31	伊藤 克夫	34	横山 征也	38	佐々木正秀	42	伊藤 信一	49	中山 雅之
26	三宅 宗議	31	奥山 興悦	35	嶋山 俊昭	38	館澤 佑	42	伊藤 輝明	49	横江 敏勝
27	阿部 尚之	31	北川 洋三	35	星野 捷二	38	丁子 幹雄	42	佐久間克彦	50	高橋 悟
27	及川 栄喜	31	遠山日出夫	36	浅野 勝男	38	早川 誠	42	田口 敏明	50	高橋 巖
27	菅井 武彦	31	松本 喜男	36	阿部 禎一	38	渡部 正昭	42	土屋 清治	51	森口 秀志
27	徳江 明	32	阿部 隆雄	36	阿部 長光	39	阿部 重雄	42	新田 輝夫	52	高橋 章建
27	平塚 久義	32	角田 守弘	36	梅澤 智	39	岩崎 宏幸	43	伊藤 純一	52	三浦 得雄
27	船田 清孝	32	加藤 憲一	36	大森 彬	39	及川 舜	43	遠藤 洋治	56	亀山 光浩
27	三宅 哲	32	櫻井 庸正	36	菊地 潔	39	熊谷 道夫	43	小田島孝好	56	星野 知倫
27	吉田 貢	32	手代木 扶	36	相良 秀夫	39	今野 雅隆	43	佐藤 雅洋	59	飯坂 正弘
28	小野寺康夫	32	芳沢 勇夫	36	藤 俊治	39	佐藤 泰助	43	佐藤 休三	60	佐々木克仁
28	成沢 良	33	阿部 倫夫	36	阿部 亨	40	阿部 義治	43	成澤 貴義	62	成家 新一
29	安部 正剛	33	加藤今朝美	37	安住 知彦	40	岩崎久仁夫	43	若山 栄作	63	的場 一成
29	今井寅三郎	33	金子 賛	37	安部 和則	40	加藤 友成	44	赤坂 正行	75	木村 祐介
		33	木村 貴則	37	遠藤 順政	40	斎藤 紀夫	44	尾口 仁志		

合計220名/811,797円

訃報

前回発行以降に連絡及び今回の総会開催案内の返信等で、下記のご逝去の報をお受けしました。心からご冥福をお祈り申し上げます。鰐陵回生順、年月日は、お受けした返信等によるご逝去の年月日です。

記

- ・12回生 亀山 純 様 平成21年
 - ・20回生 越智 徹郎 様 令和元年7月1日
 - ・21回生 佐藤 嘉一 様 平成22年
 - ・24回生 崎野 昇三 様 令和2年7月18日
 - ・24回生 伊藤 薫 様 令和3年2月9日
 - ・25回生 平塚 忠 様 平成31年2月頃
 - ・25回生 片岡 安克 様 平成30年11月26日
 - ・25回生 邊見 秀雄 様 平成30年10月
 - ・26回生 鈴木 春雄 様 令和2年
 - ・26回生 日野 和雄 様 令和2年1月14日
 - ・27回生 田村 修 様 令和元年11月30日
 - ・28回生 安田 伸 様 平成29年
 - ・29回生 木村 哲也 様 令和2年11月9日
 - ・30回生 小島 守夫 様 令和2年2月12日
 - ・31回生 赤間 紘一 様 令和2年1月5日
 - ・31回生 星名 佑 様 令和2年3月28日
 - ・33回生 今野 秀克 様 令和3年1月22日
 - ・34回生 丁子 正久 様 令和2年1月
 - ・35回生 栗田 幸一 様 令和2年5月31日
 - ・36回生 齊藤 信治 様 平成29年
 - ・36回生 村田 俊照 様 平成27年3月
 - ・39回生 鶴田 博 様 平成16年2月17日
 - ・46回生 高橋 健樹 様 令和2年5月26日
 - ・49回生 中山 雅之 様 令和2年5月6日
- (令和3年6月30日現在)

発行●東京鰐陵会(石巻高等学校同窓会東京支部)
 会長 佐藤 悠
 発行所●東京鰐陵会事務所(新田 輝夫 方)
 〒115-0043 東京都北区神谷1-3-5-304
 TEL & FAX : 03-3927-8856
 編集●東京鰐陵編集委員会
 Mail : info@gakuryou.com
 【振込み口座】●郵便振替口座番号 : 00180-4-350194
 加入者名 : 東京鰐陵会

【編集後記】

本号は「2020年度総会中止」という事態をうけて、交流特集号としました。編集方針を大幅に変更し、総会など同窓会の交流活動を今後どのように継続・発展させていくかを考える特別企画を組み、新しい発想のもとで3本の特集を柱に編集しました。

特集1での「東京日本大震災から10年」は、石巻市、東松島市、女川町の3首長に寄稿をお願いしました。このうち石巻市と東松島市は4月に選挙あり、東松島市は渥美巖市長が無投票で当選しました。石巻市は亀山絨市長が引退して新人の齋藤正美市長に交代しましたが、この10年間は亀山氏が市長の任にあり、「寄稿者は亀山氏が適任」との判断から、前市長の肩書で寄稿してもらいました。

また、母校の校長も4月の異動で神成浩志氏から高梨正博氏に代わりましたが、これまでの経緯を勘案し「挨拶」の原稿も、前校長の神成氏にお願いしました。

また特別寄稿として木村貴則監事(33回生)の「総会運営の変遷について」をはじめ文化庁調査官の近江秀俊さん(56回生)から「古代史研究と石巻」をお寄せいただいたほか、第28回総会の当番幹事として「高砂」を紋付袴姿で披露してもらった吉田祐一さん(43回生)からは、謡曲との関わりを綴った「謡い」、小田島孝好さん(43回生)からは、柔道部の同期生との交流記「狐死首丘」を寄稿していただきました。

このほか挿絵は、本号の交流の継統と発展という趣旨を踏まえ、母校の美術部生徒の作品を掲載しました。後輩の力作に目を留めていただければ幸いです。

本号も佐藤悠会長(37回生)、丹野静也副会長(37回生)、境田憲男副会長(37回生)、加藤友成事務局長(40回生)、新田輝夫事務局次長(42回生)、伊藤純一事務局次長(43回生)、尾口仁志事務局次長(44回生)の7人の編集委員のほか、瀬川徹事務局次長(40回生)と編集業務に精通している三宅哲理事(27回生)の協力を得て編集作業に取り組みました。

協成前校長の挨拶にもあるように母校では1月、生徒と教職員二十数人のクラスターが発生し、14日間の臨時休校を余儀なくされました。ワクチン接種が進む中、コロナの感染が急拡大し収束の見通しは不明ですが、どのような状況にも柔軟に対応し、難局を乗り切ることが出来るよう願って止みません。

(編集委員会)